

Symantec NetBackup マス ターサーバーのクラスタ化管 理者ガイド

UNIX、Windows および Linux

リリース 7.6



Symantec NetBackup マスターサーバーのクラスタ化 管理者ガイド

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

製品バージョン: 7.6

マニュアルバージョン: 7.6

法的通知と登録商標

Copyright © 2013 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec および **Symantec** ロゴは、**Symantec Corporation** または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このシマンテック製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで利用できます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースのフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこのシマンテック製品に含まれる **TRIP ReadMe File** を参照してください。

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。本書のいかなる部分も、**Symantec Corporation** およびそのライセンサーからの事前に文書による許諾を得ることなく、いかなる方法によっても無断で複写、複製してはならないものとします。

本書は、現状有姿のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。**SYMANTEC CORPORATION** およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書の内容は、事前の通知なく、変更される可能性があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、**FAR 12.212** の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、**FAR 52.227-19**「**Commercial Computer Licensed Software - Restricted Rights**」、**DFARS 227.7202**「**Rights in Commercial Computer Licensed Software or Commercial Computer Licensed Software Documentation**」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼働、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼働、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043
<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	NetBackup マスターサーバーのクラスタ化の概要	8
	このマニュアルについて	8
	NetBackup のクラスタ化について	8
	仮想環境の NetBackup クラスタ化	9
	クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのデータ保護について	9
	NetBackup フェールオーバーサーバーのサポートについて	10
	NetBackup がサポートされるクラスタソリューション	11
	NetBackup クラスタの互換性リストへのアクセス	11
	クラスタ化された NetBackup に対する LiveUpdate の構成について	12
	クラスタソリューションでの NetBackup の制限事項について	12
第 2 章	Microsoft Cluster Server での NetBackup	14
	Microsoft Cluster Server での NetBackup について	14
	MSCS クラスタでの NetBackup のインストール前提条件	15
	MSCS クラスタへの NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール	16
	MSCS クラスタでの NetBackup サーバーの構成	17
	MSCS クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード	18
	クラスタクォーラムのリストア	19
	ディレクトリサービスによるクラスタクォーラムのノードへのリストア	21
	MSCS のディザスタリカバリの準備	22
	MSCS のディザスタリカバリ	22
	MSCS クラスタ全体のリカバリ	23
	すべての共有ディスクのリカバリ	23
	共有ディスクでの NetBackup データのリカバリについて	24

第 3 章	UNIX または Linux 上の Veritas Cluster Server での NetBackup	26
	UNIX または Linux 上の Veritas Cluster Server での NetBackup について	27
	UNIX または Linux 上の VCS での NetBackup のインストール前提条件	27
	Unix または Linux 上の VCS に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリストについて	28
	NetBackup のインストール情報 (すべての VCS 構成用)	28
	NetBackup のインストール情報 (特定の VCS 構成用)	29
	Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール	31
	Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーの構成	32
	既存のクラスタへのノードの追加について	33
	UNIX または Linux 上の VCS での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード	33
	Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード	34
第 4 章	Windows 上の Veritas Cluster Server での NetBackup	37
	Windows 上の Veritas Cluster Server での NetBackup について	37
	Windows 上の NetBackup Agent for VCS の概要	38
	Windows 上の VCS での NetBackup のインストール前提条件	38
	Windows 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール	40
	Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの構成	41
	Windows 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード	42
	NetBackup サーバーの詳細監視について	43
	Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの詳細監視スクリプトの設定	44
	VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視の有効化	45
	VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視の無効化	45
第 5 章	SunCluster での NetBackup	47
	SunCluster での NetBackup について	47
	SunCluster での NetBackup のインストール前提条件	48

	SunCluster に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする 場合のインストール前チェックリスト	49
	SunCluster での NetBackup のインストール	49
	SunCluster での NetBackup の構成	51
	SunCluster での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップ グレード	52
	SunCluster での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレー ド	53
	リソースグループをオンラインまたはオフラインにするための SunCluster コ マンド	55
第 6 章	HP Service Guard クラスタでの NetBackup	56
	HP Service Guard クラスタでの NetBackup について	56
	HP Service Guard クラスタでの NetBackup のインストール前提条件	57
	HP Service Guard クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーを インストールする場合のインストール前チェックリスト	58
	HP Service Guard クラスタでの NetBackup のインストール	59
	HP Service Guard クラスタでの NetBackup の構成	61
	HP Service Guard クラスタでの NetBackup オプション製品のインストー ルまたはアップグレード	62
	HP Service Guard クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバー のアップグレード	63
	リソースグループをオンラインまたはオフラインにするための Service Guard コマンド	64
第 7 章	HACMP for AIX クラスタでの NetBackup	66
	HACMP for AIX クラスタでの NetBackup について	66
	HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール前提条件	67
	HACMP for AIX クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをイン ストールする場合のインストール前チェックリスト	68
	HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール	69
	HACMP for AIX クラスタでの NetBackup の構成	70
	HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール	71
	HACMP for AIX クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーの アップグレード	72
	NetBackup リソースグループのオンライン化またはオフライン化	74
第 8 章	NetBackup の構成	76
	NetBackup の構成の概要	77
	NetBackup の構成ガイドライン	78
	デバイスの構成ガイドライン	79

	デバイスの構成	80
	クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成	81
	NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について	82
	バックアップ対象	82
	クラスタ内のローカルディスクのバックアップのガイドライン	83
	共有ディスクのバックアップのガイドライン	83
	NetBackup 構成の検証	84
	ロボットデーモンの監視の構成 (UNIX または Linux クラスタ)	85
	追加サービスの構成 (UNIX/Linux クラスタ)	85
	アドオンの監視の構成 (UNIX または Linux クラスタ)	86
	追加サービスの構成 (Windows)	86
	アドオンの監視の構成 (Windows)	87
	ライセンスキーの追加について	87
第 9 章	操作上の注意事項	89
	クラスタ化されたマスターサーバーの管理に関する一般的な注意事項	89
	切断された接続の検出の遅延について (Windows 上の MSCS および VCS)	90
	MSCS クラスタについて	91
	NetBackup クラスタアプリケーションの管理について	92
	ログ情報	92
	NetBackup の IPv6 サポートについて	93
付録 A	複数インターフェースを使用するクラスタ内の NetBackup マスターサーバー	94
	複数インターフェースを使用するクラスタ内の NetBackup マスターサーバーについて	94
	複数のインターフェースを使用するクラスタで NetBackup マスターサーバーを使う場合の要件	97
	複数のインターフェースを使用するクラスタでの NetBackup マスターサーバーの構成	97
索引		99

NetBackup マスターサーバーのクラスタ化の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [このマニュアルについて](#)
- [NetBackup のクラスタ化について](#)
- [クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのデータ保護について](#)
- [NetBackup フェールオーバーサーバーのサポートについて](#)
- [NetBackup がサポートされるクラスタソリューション](#)
- [NetBackup クラスタの互換性リストへのアクセス](#)
- [クラスタ化された NetBackup に対する LiveUpdate の構成について](#)
- [クラスタソリューションでの NetBackup の制限事項について](#)

このマニュアルについて

『Symantec NetBackup マスターサーバーのクラスタ化 管理者ガイド』では、NetBackup マスターサーバーをクラスタ化することによって NetBackup で高可用性を実現するための情報を提供します。クラスタ化されたマスターサーバーを設定する場合は、『Symantec NetBackup マスターサーバーのクラスタ化 管理者ガイド』を使ってください。

NetBackup のクラスタ化について

クラスタはアプリケーションおよびデータの高可用性を実現します。クラスタでは、2 台以上のサーバー（ノード）がネットワークでリンクされます。これらのサーバーではクラスタソフトウェアが実行され、共有ディスクに各ノードがアクセスできます。ノードが利用できなく

なった場合、クラスタリソースを利用可能なノードに移行します (この処理をフェールオーバーと呼びます)。共有ディスクと仮想サーバーは継続して使用できます。フェールオーバー時には、サービスが中断しますが、短時間で済みます。

このマニュアルでは、各種のクラスタソリューションを次のように呼びます。

- Microsoft Cluster Server を MSCS と呼びます。
- Veritas Volume Manager を Volume Manager と呼びます。
- Veritas Cluster Server を VCS と呼びます。
- HP MC/Service Guard を Service Guard と呼びます。
- IBM High Availability Cluster Multiprocessing を HACMP と呼びます。

仮想環境の Netbackup クラスタ化

仮想マシンで実行される NetBackup マスターサーバーは、物理マシンのクラスタ化と同様の方法で、サポートされているクラスタ技術を使用してクラスタ化できます。クラスタ化された仮想環境の NetBackup のサポートに関する一般的なステートメントについては、以下の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH127089>

物理マシンにそれらをインストールする方法と同様の方法で、仮想マシンに Storage Foundation HA のような製品をインストールできます。ただし、VMware HA または vMotion は仮想マシン内のアプリケーションレベルではなく、仮想マシンコンテナレベルで動作するため、それらを使用する場合は異なります。

メモ: VM 高可用性内の NetBackup を使用して、レプリケーションまたは転送ソリューションはシマンテック社によりサポートされていますが、認証されていません。(そのようなソリューションの例としては、vSphere HA、ホストベースのレプリケーション、vMotion およびストレージの vMotion (VMware など) があります)。仮想化されたアプリケーションとして、NetBackup は VM 内で配備されていることを認識しておらず、そのようなオペレーションのサポートがハイパーバイザのメーカーにより提供されます。

クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのデータ保護について

NetBackup ではいくつかの方法でクラスタ環境のデータが保護されます。

フェールオーバーサーバーとしてインストールする場合、NetBackup サーバーは仮想サーバーアプリケーションとしてクラスタにインストールされます。このため、サーバーを他のノードへフェールオーバーできます。サーバーには、ネットワーク名リソース (仮想サーバー名)、IP アドレスリソースおよびディスクリソースが割り当てられます。アクティブノード

でエラーが発生すると、NetBackup サーバーは別のノードにフェールオーバーします。このフェールオーバーによって、NetBackup サーバー自体の高可用性を実現できます。

フェールオーバーマスターサーバーでは、マスターサーバー名として仮想サーバー名を使用します。この仮想サーバー名は、このマスターサーバーを使用しているすべてのメディアサーバーおよびクライアントに対して使用されます。

フェールオーバーの発生時に、実行中であったバックアップジョブは、失敗したバックアップの通常の NetBackup の再試行処理によって、再スケジュールされます。別のノードで NetBackup サービスが起動され、バックアップ処理が再開します。

NetBackup フェールオーバーマスターサーバーと NetBackup フェールオーバーメディアサーバーはアクティブかパッシブのフェールオーバー構成で動作します。アクティブノードとパッシブノード (フェールオーバーノード) は、マスターサーバーと同じバージョンである必要があります。

クラスタでのスタンドアロンメディアサーバーおよび NetBackup クライアントの使用方法の概要については、このマニュアルの後の部分でも説明します。

NetBackup フェールオーバーサーバーのサポートについて

NetBackup リリース 7.5 以降の場合、マスターサーバーはクラスタ化されたメディアサーバーのアップグレードをサポートします。ただし、マスターサーバーがメディアサーバーでもある場合、マスターサーバーはクラスタ化されたメディアサーバーの構成もサポートします。アップグレードでサポートされている NetBackup バージョンについての詳細は、次を参照してください。『[NetBackup インストールガイド](#)』。

マスターサーバーとメディアサーバーのアップグレード手順は同じです。

このマニュアルの各クラスタテクノロジーに対する NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレードに関する以下の項の指示に従ってください。

- p.18 の「[MCS クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。
- p.34 の「[Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。
- p.42 の「[Windows 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。
- p.53 の「[SunCluster での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。
- p.63 の「[HP Service Guard クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。

- p.72 の「[HACMP for AIX クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。

NetBackup がサポートされるクラスタソリューション

NetBackup は複数のクラスタ環境をサポートします。特定の種類のクラスタでの NetBackup のインストールおよび構成について、詳しい説明が用意されています。

表 1-1 に、サポート対象の各クラスタ環境に NetBackup をインストールして構成する方法について説明する項目を示します。

表 1-1 サポートされるクラスタソリューション

クラスタソリューション	参照先
Microsoft Cluster Server	p.14 の「 Microsoft Cluster Server での NetBackup について 」を参照してください。
Veritas Cluster Server Windows 2003、2008、 2008R2	p.37 の「 Windows 上の Veritas Cluster Server での NetBackup について 」を参照してください。
UNIX または Linux 上の Veritas Cluster Server	p.27 の「 UNIX または Linux 上の Veritas Cluster Server での NetBackup について 」を参照してください。
SunCluster	p.47 の「 SunCluster での NetBackup について 」を参照してください。
HP MC/Service Guard	p.56 の「 HP Service Guard クラスタでの NetBackup について 」を参照してください。
HACMP for AIX	p.66 の「 HACMP for AIX クラスタでの NetBackup について 」を参照してください。

NetBackup クラスタの互換性リストへのアクセス

シマンテック社のサポート Web サイトでは、NetBackup の最新のプラットフォームサポート情報を参照できます。Web サイトで最新情報を検索するには、次の手順を実行します。

NetBackup クラスタの互換性リストにアクセスする方法

- 1 次の Web サイトに移動します。
<http://entsupport.symantec.com>
- 2 [Find Your Product] ボックスで、[NetBackup Enterprise Server] と入力し、[>] オプションをクリックします。
Microsoft Cluster Server および Windows 用の Veritas Cluster Server の場合は、[NetBackup Server] も選択できます。
- 3 右側のリストで、[Compatibility List] をクリックします。
- 4 サポートされているクラスタ環境については、次のリストを参照してください。
Symantec NetBackup (tm) Enterprise Server x.x / NetBackup Server x.x Cluster Compatibility (updated *date*)
x.x は現在のリリース番号です。*date* が最新の日付のものを検索します。
- 5 PDF 文書のリンクをクリックします。

クラスタ化された NetBackup に対する LiveUpdate の構成について

クラスタ化された NetBackup サーバーと連携して動作するように LiveUpdate を構成する方法に関する情報が利用可能です。

次を参照してください。『[Symantec NetBackup LiveUpdate ガイド](#)』。

クラスタソリューションでの NetBackup の制限事項について

クラスタ内の NetBackup には、次の一般的な制限事項があります。

- NetBackup では、既存のフェールオーバー非対応 NetBackup サーバーの、フェールオーバー対応 NetBackup サーバーへのアップグレードはサポートされていません。シマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。
- NetBackup のすべてのノードは同じオペレーティングシステムと NetBackup のバージョンを実行している必要があります。
- NetBackup クラスタは単一のクラスタで複数のマスターサーバーをサポートしません。
- NetBackup サーバークラスタは Windows でのみサポートされ、UNIX と Linux プラットフォームではサポートされません。

- NetBackup Enterprise Server クラスタは Windows と Linux プラットフォームでサポートされます。
- NetBackup Enterprise Server はすべてのクラスタソリューションでサポートされます。p.11 の『[NetBackup がサポートされるクラスタソリューション](#)』を参照してください。
- NetBackup オプション特有の制限事項について詳しくは、次を参照してください。『[Symantec NetBackup リリースノート](#)』。メディアマネージャ特有の制限事項について詳しくは、次を参照してください。『[Symantec NetBackup 管理者ガイド](#)』。

Microsoft Cluster Server での NetBackup

この章では以下の項目について説明しています。

- [Microsoft Cluster Server での NetBackup について](#)
- [MSCS クラスタでの NetBackup のインストール前提条件](#)
- [MSCS クラスタへの NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール](#)
- [MSCS クラスタでの NetBackup サーバーの構成](#)
- [MSCS クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)
- [クラスタクォーラムのリストア](#)
- [ディレクトリサービスによるクラスタクォーラムのノードへのリストア](#)
- [MSCS のディザスタリカバリの準備](#)
- [MSCS のディザスタリカバリ](#)
- [MSCS クラスタ全体のリカバリ](#)
- [すべての共有ディスクのリカバリ](#)
- [共有ディスクでの NetBackup データのリカバリについて](#)

Microsoft Cluster Server での NetBackup について

Microsoft Cluster Server (MSCS) は、クラスタ構成の高可用性ソリューションです。Microsoft Cluster Server を使うと、システムとアプリケーションサービスを監視できます。MSCS の動作とそのインストールおよび管理の方法について詳しくは、MSCS のマニュアルを参照してください。

NetBackup のインストールおよび管理の方法について詳しくは、次を参照してください。
『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

NetBackup は、フェールオーバー非対応サーバーとして、および仮想ストレージユニットを含むスタンドアロンメディアサーバーとしてクラスタに構成できます。詳しくは、次を参照してください。『NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド』。

MSCS クラスタでの NetBackup のインストール前提条件

MSCS 環境に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールおよび構成するには、次の要件が満たされている必要があります。

- MSCS および NetBackup 7.6 で、ハードウェアがサポートされていることを確認します。サポートされているストレージデバイスのリストについては、次の **Web** サイトを参照してください。また、MSCS のマニュアルも参照してください。
<http://entsupport.symantec.com>
- ストレージデバイスが正常にインストールおよび構成されて、Windows 環境で動作していることを確認します。ストレージデバイスの構成に関する情報を参照してください。『Symantec NetBackup インストールガイド』。
- Microsoft Cluster Server が正しくインストールされ、構成されていることを確認します。(NetBackup 7.6 ではすべてのバージョンがサポートされています。)NetBackup は、MSCS でサポートされるすべてのノードにインストールできます。インストールされている Windows のレベルに応じて、MSCS は、クラスタで最大 4 ノードまたは 8 ノードをサポートします。
- NetBackup をインストールする各ノードにロボットデバイスとテープデバイスを物理的に接続します。デバイスは SCSI またはファイバーチャネルで接続します。OS コマンドを使用してすべてのデバイスが正しく接続されていることを確認します。次を参照してください。『Symantec NetBackup デバイス構成ガイド』。
- 仮想 IP アドレスおよび仮想ホスト名を NetBackup クラスタグループに割り当てていることを確認します。NetBackup クラスタグループに対してのみこれらを使用します。また、クラスタで NetBackup のインストールが初めて実行されるノードのディスクリソースがオンラインであることも確認します。
このリリースの NetBackup では IPv6 がサポートされています。
p.93 の「NetBackup の IPv6 サポートについて」を参照してください。
- Cluster Administrator を使用して、NetBackup が使用する各ディスクリソースの [Possible Owners] リストに、NetBackup がフェールオーバーできる各ノードが含まれていることを確認します。
- NetBackup Enterprise Server 7.6 または NetBackup Server 7.6 のインストールプログラムおよび有効なライセンスキーを確認します。

- **NetBackup** フェールオーバーマスターサーバーをリモートで管理するには、使用するすべての **NetBackup** サーバーに、**Microsoft Cluster Administrator** がインストールされている必要があります。また、**Microsoft Cluster Administrator** はすべての **NetBackup** 管理クライアントにインストールされている必要があります。
- サーバークラスタに対する管理者権限かドメイン管理クレデンシヤルを持つ必要があります。
- **Windows** では、プッシュインストールする場合、クラスタの両方のノードでパブリックネットワークの名前が同じである必要があります。
- すべてのノードの同じパスに **NetBackup** をインストールする必要があります。

MSCS クラスタへの NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール

インストールを始める前に、次の注意事項を確認してください。

- ここで説明する手順では、**NetBackup** フェールオーバーサーバーの新規インストールを想定しています。
NetBackup を初期インストールするのではなく、アップグレードする場合は、アップグレード手順を実行します。
p.18 の「[MSCS クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。
- **NetBackup** がフェールオーバー可能な各ノードに同じ種類の **NetBackup** サーバーをインストールする必要があります。
- **Microsoft** 社の制限によって、仮想名に 15 文字を超える名前を指定することはできません。

メモ: MSCS で **NetBackup** をクラスタグループとしていったん構成した後は、グループ名を変更しないでください。

インストールプログラムによって、次の処理が実行されます。

- 共有ディスクのリソースがオンラインになっているノードに **NetBackup** をインストールします。
- それぞれの非アクティブノードへのプッシュインストールが実行され、マスターサーバーのインストールで指定した単一ライセンスキーが格納されます。
- **NetBackup** リソースがオンラインになります。

NetBackup を初期インストールするのではなく、アップグレードする場合は、別の手順を実行する必要があります。

p.18 の「[MSCS クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。

MSCS クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする方法

- 1 クラスタのすべてのノードに NetBackup をインストールします。このインストールは次の方法で行うことができます。
 - (共有ディスクがオンラインになっている) クラスタノードにインストールし、クラスタの他のすべてのノードにプッシュインストールします。
 または
 - (共有ディスクがオンラインになっている) クラスタノードにインストールします。最初のノードへのインストール後に、クラスタの他のすべてのノードに手動でインストールします。

クラスタ環境における NetBackup について、次の資料の指示に従ってください。
[『Symantec NetBackup インストールガイド』](#)。

- 2 サーバーのリストを指定するように求められたら、NetBackup フェールオーバーサーバーにアクセスする必要があるサーバーをすべて入力します。
- 3 (OpsCenter 用などに) 追加のライセンスキーを追加していた場合、インストール後にフェールオーバーを実行し、クラスタ内の各ノードにこれらのキーを追加します。
 p.87 の「[ライセンスキーの追加について](#)」を参照してください。
- 4 個別にインストールする必要があるすべてのオプション製品をインストールします。
 Windows オプション製品の多くは固有のライセンスキーのみを必要とし、個別にインストールする必要はありません。詳しくは、特定のオプション製品に関する NetBackup のマニュアルを参照してください。
- 5 インストールが完了したら、NetBackup の構成に進みます。
 p.17 の「[MSCS クラスタでの NetBackup サーバーの構成](#)」を参照してください。

MSCS クラスタでの NetBackup サーバーの構成

クラスタで NetBackup サーバーを構成するには、次の手順を実行します。

表 2-1 MSCS クラスタでの NetBackup サーバーの構成

手順	処理
1	NetBackup の構成方法のガイドラインを確認します。 p.78 の「 NetBackup の構成ガイドライン 」を参照してください。

手順	処理
2	<p>クラスタ内のデバイスを構成します。</p> <p>p.79 の「デバイスの構成ガイドライン」を参照してください。</p> <p>p.80 の「デバイスの構成」を参照してください。</p> <p>メモ: デバイスはクラスタの各ノードで構成する必要があります。</p>
3	<p>NetBackup カタログバックアップのエントリが正しいことを確認します。</p> <p>p.81 の「クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成」を参照してください。</p> <p>カタログバックアップの情報は共有ディスクに格納されるため、ノードごとに構成する必要はありません。</p>
4	<p>バックアップポリシーを構成します。バックアップポリシーは共有ディスクに格納されるため、各ノードに対して構成する必要はありません。</p> <p>p.82 の「NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について」を参照してください。</p>
5	<p>デフォルトでは、NetBackup のオプション製品 (NetBackup Vault など) で障害が発生しても、NetBackup はフェールオーバーされません。サービスまたはオプション製品に障害が発生した場合に、NetBackup をフェールオーバーするように NetBackup のオプション製品を構成できます。</p> <p>p.87 の「アドオンの監視の構成 (Windows)」を参照してください。</p>
6	<p>NetBackup の構成が完了したら、NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。</p> <p>p.84 の「NetBackup 構成の検証」を参照してください。</p>

MSCS クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード

NetBackup をアップグレードする場合には、次の手順を実行します。

メモ: NetBackup では、既存のフェールオーバー非対応 NetBackup サーバーの、フェールオーバー対応 NetBackup サーバーへのアップグレードはサポートされていません。シマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

メモ: NetBackup クラスタ構成を手動で変更したり外部スクリプトによって変更されている場合には、NetBackup クラスタレジストリに正しく反映されていることを確認します。

MSCS クラスタで NetBackup フェールオーバーサーバーをアップグレードする方法

- 1 カタログバックアップを含むクラスタ環境の有効なバックアップが存在することを確認します。

p.81 の「[クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成](#)」を参照してください。

- 2 クラスタ外で実行されている各 NetBackup サーバーについて、サーバーリストが正しいことを確認します。このリストには、NetBackup を実行できる各ノードの名前と仮想サーバーの名前が含まれている必要があります。
- 3 アップグレードを実行する前に、ディスクリソース、仮想 IP、仮想名を除くすべての NetBackup リソースをオフラインにします。
- 4 次に記載されている手順に従って、クラスタ化された環境で NetBackup をアップグレードします。『[NetBackup インストールガイド](#)』。

インストールプログラムによって、次の処理が実行されます。

- アクティブノードの NetBackup がアップグレードされます。
- それぞれの非アクティブノードへのプッシュインストールが実行されます。
- NetBackup リソースがオンラインになります。

- 5 すべてのオプション製品をアップグレードして構成します。

オプション製品の多くはライセンスキーのみを必要とし、個別にアップグレードする必要はありません。特定のオプション製品のインストールと構成方法について詳しくは、そのオプションに関する NetBackup のマニュアルを参照してください。

クラスタクォーラムのリストア

クラスタクォーラムは、各ノードのシステム状態またはシャドウコピーコンポーネントの一部としてバックアップされます。クラスタクォーラムをリストアするには、クラスタの他のノードをオフラインにする必要があります。クラスタクォーラムをリストアする前に、クラスタの他のノードをオフラインにできない場合は、次の手順に従います。

他のノードがオンラインの場合に、クラスタクォーラムのリストアを強制的に実行する方法

- 1 次のレジストリエントリを作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\VERITAS\NetBackup\CurrentVersion\
Config\Cluster_Database_Force_Restore
```

レジストリエントリは、実際には 1 行で記述する必要があります。必要に応じて、このレジストリ値にデータ型 **REG_SZ** および値 **YES** を指定します。この値を設定すると、オンラインのすべてのノードで、クラスタサービスが停止します。

- 2 ターゲットサーバーで **Active Directory** が実行中であるか、ターゲットサーバーが現在ドメインコントローラである場合、リストア手順は異なります。

p.21 の「[ディレクトリサービスによるクラスタクォーラムのノードへのリストア](#)」を参照してください。

クラスタクォーラムをリストアする方法

- 1 クラスタの他のノードがオンラインの場合は、前述の手順で説明したレジストリエントリを作成します。
- 2 **NetBackup** のバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースで、[リストア (Restore)] ウィンドウを開きます。
- 3 クラスタのこのノードのシステム状態またはシャドウコピーコンポーネントのバックアップが含まれるバックアップイメージ (またはイメージの範囲) を選択します。
- 4 [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで、[**System_State**] または [シャドウコンポーネント (Shadow Copy Components)] を選択します。
- 5 クラスタクォーラムが以前に存在していたディスクが変更された場合は、レジストリエントリを設定します。この手順によってリストアが継続されます。

p.20 の「[他のノードがオンラインの場合に、クラスタクォーラムのリストアを強制的に実行する方法](#)」を参照してください。

ディスクが新しいものに交換されている場合があります。または、クラスタクォーラムが異なるディスクに存在するようにディスク構成が変更されている場合もあります。後者の場合、クラスタクォーラムが含まれるディスクと同じドライブ文字を使用できます。ドライブ文字は、構成が変更された場合でも同じものを使用することができます。また、リストアメディアに格納されているディスク署名がクラスタクォーラムに格納されているディスク署名と一致しない場合でも、同じものを使用することができます。

- 6 リストアを続行します。
- 7 リストア処理が完了したら、クラスタノードを再起動します。または、**Microsoft Cluster Administrator** を使用して、任意のノードで停止しているクラスタサービスを再起動します。

ディレクトリサービスによるクラスタクォーラムのノードへのリストア

Active Directory を実行しているノードまたは現在ドメインコントローラであるノードにクォーラムをリストアするには、ノードが[ディレクトリサービス復元モード (Directory Services Restore Mode)]である必要があります。クラスタサービスはこのモードで実行できません。そのため、システム状態またはシャドウコピーコンポーネントのリストア後、ノードを再起動した後に、クラスタクォーラムを個別にリストアする必要があります。

Active Directory を実行しているノードまたは現在ドメインコントローラであるノードにクラスタクォーラムをリストアする方法

- 1 NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースで、[リストア (Restore)]ウィンドウを開きます。
- 2 リストアするバックアップが含まれるバックアップイメージ (またはイメージの範囲) を選択します。
- 3 次のように、リストアからクラスタクォーラムを除外します。
 - Windows 2000 の場合は、[System_State] を展開し、次に [Cluster_Database] を選択解除します。
 - Windows 2003 の場合は、[シャドウコピーコンポーネント (Shadow Copy Components)]>[システム状態 (System State)] を展開し、次に [Cluster_Quorum] を選択解除します。
- 4 リストアを続行します。
- 5 リストア処理が完了したら、クラスタノードをセーフ (修復) モードで再起動します。その後、[ディレクトリサービス復元モード (Directory Services Restore Mode)]を選択します。
- 6 NetBackup サービスを開始します。
- 7 NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 8 次のように、クラスタクォーラムのみ選択します。
 - Windows 2000 の場合は、[System_State] を展開し、[Cluster_Database] のみを選択します。
 - Windows 2003 の場合は、[シャドウコピーコンポーネント (Shadow Copy Components)]>[システム状態 (System State)] を展開し、[Cluster_Quorum] のみを選択します。

- 9 クラスタオーラムが以前に存在していたディスクが変更された場合は、レジストリエントリを設定する必要があります。この手順によってリストアが継続されます。

p.20 の「他のノードがオンラインの場合に、クラスタオーラムのリストアを強制的に実行する方法」を参照してください。

ディスクが新しいものに交換されている場合があります。または、クラスタオーラムが異なるディスクに存在するようにディスク構成が変更されている場合もあります。後者の場合、クラスタオーラムが含まれるディスクに同じドライブ文字を使用できます。ドライブ文字は、構成が変更された場合でも同じものを使用することができます。また、リストアメディアに格納されているディスク署名がクラスタオーラムに格納されているディスク署名と一致しない場合でも、同じものを使用することができます。

- 10 リストアを続行します。
- 11 リストアが完了したら、ターゲットノードを再起動します。
- 12 Microsoft Cluster Administrator を使用して、任意のノードで停止しているクラスタサービスを再起動します。

MSCS のディザスタリカバリの準備

MSCS のリカバリの詳細な手順については、次に示す Microsoft 社のマニュアルを参照してください。シマンテック社のマニュアルでは、NetBackup を使用してバックアップしたオブジェクトのリストアの手順のみを説明しています。Microsoft 社の Web サイトで、『サーバークラスタ: Windows Server 2003 のバックアップと回復の推奨事例』を参照してください。

www.microsoft.com/technet/prodtechnol/windowsserver2003/technologies/clustering/sercbrbp.msp

MSCS のディザスタリカバリ

次の項で、様々なディザスタリカバリのシナリオについて説明します。

- p.23 の「MSCS クラスタ全体のリカバリ」を参照してください。
- p.23 の「すべての共有ディスクのリカバリ」を参照してください。
- p.24 の「共有ディスクでの NetBackup データのリカバリについて」を参照してください。

この最後の項では、NetBackup アプリケーションが存在する共有ディスクをリカバリする方法について説明します。

MSCS クラスタ全体のリカバリ

次の手順は、クラスタ内のノードを障害発生前の状態にリカバリする方法について説明します。

MSCS クラスタ全体をリカバリする方法

- 1 リカバリする最初のノードに、Windows オペレーティングシステムと、障害発生前に適用していた最新の Service Pack を再インストールします。
- 2 ノードの動作に必要な他のすべてのドライブまたはアプリケーションをインストールします。
- 3 クラスタのノードを起動したら、ドライブ文字が元のクラスタ構成と一致していることを確認します。元の構成と一致していない場合は、ディスクアドミニストレータを使用して、Windows によって作成されたハードドライブの番号付けスキームを制御できます。
- 4 リカバリする必要がある残りのすべてのノードに、Windows と、障害発生前に適用していた最新の Service Pack を再インストールします。
- 5 クラスタサービスを再インストールし、クラスタをオンラインにします。
- 6 障害発生前にインストールしていた NetBackup ソフトウェアをクラスタに再インストールします。
- 7 手順を続行する前に、適切な NetBackup カタログリカバリの手順を実行して、NetBackup カタログ情報をリストアします。

詳しくは、『[Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド UNIX、Windows および Linux](#)』NetBackup カタログデータベースのリカバリに関する情報を参照してください。

- 8 クラスタ化された NetBackup サーバーがメディアサーバーである場合、リストアされた `vm.conf` ファイルにアクティブノードのホスト固有の `MM_SERVER_NAME` 構成エントリが正しく含まれていることを確認します。`MM_SERVER_NAME` がローカルホスト名と異なる場合は、サーバー名をローカルホスト名に設定します。

`MM_SERVER_NAME=local host name`

- 9 仮想サーバーからデータファイルをリストアします。
- 10 データベースを共有ドライブにリストアする必要がある場合には『[NetBackup 管理者ガイド](#)』を参照して NetBackup エージェントのリストアを続行します。

すべての共有ディスクのリカバリ

次の手順は、MSCS クラスタ内の共有ディスクをリカバリする方法を示します。

すべての共有ディスクをリカバリする方法

- 1 両方のノードからクラスタソフトウェアをアンインストールします。
- 2 共有ディスクを交換し、再パーティション化します。
- 3 クラスタソフトウェアを再インストールします。
- 4 すべての NetBackup 共有ディスクに、NetBackup の最初のインストールおよび構成時に使用していたドライブ文字が割り当てられていることを確認します。
- 5 クラスタ用に NetBackup を再構成するには、アクティブノードで次の手順を実行します。

- 次のコマンドを実行します。

```
bpclusterutil -ci
```

- データベースを再作成します。

- 次のコマンドを実行します。

```
tpext  
bpclusterutil -online
```

- 6 手順を続行する前に、適切な NetBackup カタログリカバリの手順を実行して、共有ディスクに NetBackup カタログ情報をリストアします。詳しくは、『[Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド UNIX、Windows および Linux](#)』NetBackup カタログデータベースのリカバリに関する情報を参照してください。
- 7 クラスタ化された NetBackup サーバーがメディアサーバーである場合、リストアされた `vm.conf` ファイルにアクティブノードのホスト固有の `MM_SERVER_NAME` 構成エントリが正しく含まれていることを確認します。`MM_SERVER_NAME` がローカルホスト名と異なる場合は、サーバー名をローカルホスト名に設定します。

```
MM_SERVER_NAME=local host name
```

- 8 NetBackup を使用して、共有ディスクにデータをリストアします。リストの実行方法について詳しくは、次を参照してください。『[NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド](#)』。

共有ディスクでの NetBackup データのリカバリについて

NetBackup フェールオーバーサーバーで使用していた共有ディスクをリカバリするには、適切な NetBackup カタログリカバリの手順を実行して、共有ディスクにカタログ情報をリストアします。

クラスタ化された NetBackup サーバーがメディアサーバーである場合、リストアされた `vm.conf` ファイルにアクティブノードのホスト固有の `MM_SERVER_NAME` 構成エント

リが正しく含まれていることを確認します。MM_SERVER_NAME がローカルホスト名と異なる場合は、サーバー名をローカルホスト名に設定します。

MM_SERVER_NAME=local host name

詳しくは、『[Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド UNIX、Windows および Linux](#)』NetBackup カタログデータベースのリカバリに関する情報を参照してください。

UNIX または Linux 上の Veritas Cluster Server での NetBackup

この章では以下の項目について説明しています。

- UNIX または Linux 上の Veritas Cluster Server での NetBackup について
- UNIX または Linux 上の VCS での NetBackup のインストール前提条件
- Unix または Linux 上の VCS に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリストについて
- Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール
- Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーの構成
- 既存のクラスターへのノードの追加について
- UNIX または Linux 上の VCS での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード
- Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード

UNIX または Linux 上の Veritas Cluster Server での NetBackup について

Veritas Cluster Server (VCS) は、クラスタ構成の高可用性ソリューションです。VCS を使用すると、システムおよびアプリケーションサービスを監視し、ハードウェアやソフトウェアの障害発生時に別のシステムでサービスを再起動できます。

NetBackup は、フェールオーバー非対応サーバーとして、および仮想ストレージユニットを含むスタンドアロンメディアサーバーとしてクラスタに構成できます。次を参照してください。『[NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド](#)』。

NetBackup では、VCS で Global Cluster Option (GCO) を使用できます。NetBackup と共に GCO を構成し、使用方法について詳しくは、次を参照してください。

『[Symantec NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド](#)』。

UNIX または Linux 上の VCS での NetBackup のインストール前提条件

NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールおよび構成するには、次の要件が満たされている必要があります。

- VCS および NetBackup Enterprise Server 7.6 で、ハードウェアがサポートされることを確認します。サポートされているストレージデバイスのリストについては、次の Web サイトを参照してください。
<http://entsupport.symantec.com>
- サポートされている VCS が Solaris、HP-UX、AIX または Linux に正しくインストールおよび構成されていることを確認します。『[Veritas Cluster Server インストールガイド](#)』に記載されている手順を参照してください。
- NetBackup で使用するのと同じ名前の VCS リソースグループおよびリソースが存在しないことを確認します。
- 共有ディスクを構成して、NetBackup をインストールするすべてのクラスタノードにアクセス可能な状態であることを確認します。ディスクをマウントできることも確認します。
- VCS の NetBackup リソースに IP アドレス (仮想 IP) およびホスト名 (仮想名) を割り当てていることを確認します。NetBackup リソースに対してのみこれらを使用します。また、IP アドレスに ping を実行し、IP アドレスが plumb されていないことを検証します。

VCS-UNIX の場合、ノードの IP アドレスと仮想名の IP アドレスは同じ形式 (IPv6 または IPv4) である必要があります。

このリリースの NetBackup では IPv6 がサポートされています。

p.93 の『[NetBackup の IPv6 サポートについて](#)』を参照してください。

メモ: ノードの IP 形式は仮想の IP 形式と同じである必要があります。

- NetBackup をインストールするクラスタの各ノードで、ssh または rsh (HP Service Guard の場合は remsh) を使用できることを確認します。root ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログオンできる必要があります。この必要があるのは、NetBackup サーバー、NetBackup オプション製品のインストール、アップグレード、構成を行うときだけです。インストールと構成を完了した後は ssh または rsh を無効にできます。
- クラスタ化された NetBackup マスターサーバーでは、マスターサーバーがロボット制御ホストの場合、NetBackup をインストールする各ノードにロボットデバイスとテープデバイスを物理的に接続します。デバイスは SCSI またはファイバーチャネルで接続します。OS コマンドを使用してすべてのデバイスが正しく接続されていることを確認します。次を参照してください。『Symantec NetBackup デバイス構成ガイド』。
- NetBackup Enterprise Server 7.6 インストールプログラムおよび有効なライセンスキーを確認します。

Unix または Linux 上の VCS に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリストについて

NetBackup Enterprise Server は、インストール中に特定のクラスタ関連情報を要求します。インストールを開始する前に、全構成のチェックリストおよび固有の構成のチェックリストに記入します。

p.28 の「[NetBackup のインストール情報 \(すべての VCS 構成用\)](#)」を参照してください。

p.29 の「[NetBackup のインストール情報 \(特定の VCS 構成用\)](#)」を参照してください。

メモ: 構成ユーティリティでは、他の指定がある場合を除き、すべての属性値がグローバルに処理されます。

NetBackup のインストール情報 (すべての VCS 構成用)

次の情報は、すべての VCS クラスタ構成に必要です。

- NetBackup の仮想名
- IP アドレス
- サブネットマスクまたは接頭辞の長さ

- ノード名
 次の情報は各ノードに必要です。
 - IP アドレス
 - ネットワークデバイス名 (NIC)

NetBackup のインストール情報 (特定の VCS 構成用)

次の情報は、VCS を使用している場合に必要です。ご使用の構成に合うシナリオを確認してください。

表 3-1 例 1 - VxVM を使用する場合の VCS

リソース	例
ディスクグループリソース	
ディスクグループ (disk group)	nbudg
開始ボリューム	0 または 1
終了ボリューム	0 または 1
ボリュームリソース (任意)	
ボリューム	nbuvol
マウントリソース	
マウントポイント	/opt/VRTSnbu
ブロック型デバイス	/dev/vx/dsk/nbudg/nbuvol
FS 形式	vxfs
マウントオプション	(任意)
Fsck オプション	(他のオプションを追加する場合は、-y も必要)

表 3-2 例 2 - Volume Manager を使用しない場合の VCS

リソース	例
マウントポイント	/opt/VRTSnbu
ブロック型デバイス	/dev/dsk/clt1dos3
FS 形式	vxfs
マウントオプション	(任意)

リソース	例
Fsck オプション	(他のオプションを追加する場合は、-y も必要)

表 3-3 例 3 - AIX LVMVG を使用する場合の VCS

リソース	例
ボリュームグループ (Volume Group)	nbuvg
メジャー番号	58
ディスク (Disks)	hdisk1 または hdisk2
ImportvgOpt	(任意)
VaryonvgOpt	(任意)
SyncODM	(任意)
マウントリソース	
マウントポイント	/opt/VRTSnbu
ブロック型デバイス	/dev/nbudev
FS 形式	jfs2
マウントオプション	(任意)
Fsck オプション	(他のオプションを追加する場合は、-y も必要)

表 3-4 例 4 - Logical Volume Manager を使用する HP-UX での VCS

リソース	例
LVM ボリュームグループのリソース	
ボリュームグループ	vg0a
LVM の論理ボリュームのリソース	
ボリュームグループ	vg0a
論理グループ	lv01

Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール

このトピックでは、UNIX および Linux 上の VCS にフェールオーバーアプリケーションとして新規に NetBackup Enterprise Server をインストールおよび構成する方法について説明します。NetBackup をアップグレードする場合は、異なる手順を実行する必要があります。

p.34 の「[Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。

メモ: NetBackup がフェールオーバー可能な各ノードに、NetBackup マスターサーバーをインストールする必要があります。同じ NetBackup 構成で、別々のフェールオーバーマスターサーバーを使用することはできません。

次の手順は、VCS クラスタ内の NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールして構成する方法を示しています。

メモ: NetBackup は自動的にサポート対象のクラスタテクノロジーを検出し、それに基づいて質問をプロンプトに表示します。クラスタ設定に関するこれらの質問が表示されない場合は、スクリプトを終了し、クラスタが正しく構成されていることを確認してください。

NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする方法

- 1 全構成のチェックリストおよび固有の環境のチェックリストに記入します。

p.28 の「[NetBackup のインストール情報 \(すべての VCS 構成用\)](#)」を参照してください。

p.28 の「[Unix または Linux 上の VCS に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリストについて](#)」を参照してください。
- 2 クラスタ内のすべてのノードで共有ディスクがマウントされていないことを確認します。マウントされている場合は、NetBackup 共有マウントポイントをマウント解除します。マウントポイントが有効なボリュームを停止し、クラスタのすべてのノードでそのボリュームのディスクグループをデポートします。
- 3 NetBackup のインストール方法について詳しくは、次を参照してください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。

次の点に注意してください。

 - NetBackup がフェールオーバーできる各ノードに NetBackup をインストールします。

- NetBackup サーバー名には仮想名を使用します。

注意: プロンプトが表示されたら、インストール中に指定したのと同じ仮想クラスタ名を指定する必要があります。この名前は、大文字/小文字が区別され、すべてのノードで同じ形式 (FQDN/短縮) になっている必要があります。

- 4 NetBackup をクラスタ設定でインストールしている場合は、確認のプロンプトが表示されます。
 - NetBackup を最初のノードにインストールするときに、NetBackup クラスタの作成を確認するプロンプトが表示されます。NetBackup を HA モードで設定するには、「Yes」と入力します。
 - NetBackup を以降のノードにインストールするときに、すでに作成されている NetBackup クラスタグループに関する情報が表示されます。グループに参加するように求められます。
- 5 クラスタ固有の構成の詳細を入力するためのプロンプトが表示された場合は、チェックリストを参照し、それに応じて詳細を入力します。
- 6 NetBackup をクラスタにインストールできるようにします。NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールすると、次のようになります。
 - 最初のノードで、NetBackup の単一ノードクラスタのリソースグループが作成され、オンラインになります。
 - 他のノードでは、インストールされたノードがクラスタのリソースグループに追加されます。
- 7 NetBackup オプション製品をインストールします。

p.33 の「UNIX または Linux 上の VCS での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード」を参照してください。
- 8 NetBackup の構成を続行します。p.32 の「Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーの構成」を参照してください。

Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーの構成

クラスタで NetBackup サーバーを構成するには、次の操作を実行します。

表 3-5 Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーの構成

手順	処理
1	NetBackup の構成方法のガイドラインを確認します。 p.78 の「 NetBackup の構成ガイドライン 」を参照してください。
2	クラスタ内のデバイスを構成します。 p.79 の「 デバイスの構成ガイドライン 」を参照してください。 p.80 の「 デバイスの構成 」を参照してください。 メモ: デバイスはクラスタの各ノードで構成する必要があります。
3	NetBackup カタログバックアップのエントリが正しいことを確認します。 p.81 の「 クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成 」を参照してください。 カタログバックアップの情報は共有ディスクに格納されるため、ノードごとに構成する必要はありません。
4	バックアップポリシーを構成します。バックアップポリシーは共有ディスクに格納されるため、各ノードに対して構成する必要はありません。 p.82 の「 NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について 」を参照してください。
5	NetBackup の構成が完了したら、NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。 p.84 の「 NetBackup 構成の検証 」を参照してください。

既存のクラスタへのノードの追加について

既存のクラスタにノードを追加するには、NetBackup をインストールする前に VCS クラスタにノードを追加します。インストーラは自動的に新しいノードを検出し、NetBackup クラスタ構成に追加します。

UNIX または Linux 上の VCS での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード

NetBackup サーバーがインストールされているすべてのクラスタノードで、NetBackup オプション製品 (言語パックなど) をインストールまたはアップグレードします。オプション製品のインストール前には NetBackup グループを凍結します。

メモ: オプション製品をアップグレードする前に、クラスタの NetBackup リソースがオンラインであることを確認します。また、サーバーの処理がアクティブノードで実行されていることを確認してください。

UNIX または Linux 上の VCS で NetBackup オプション製品をインストールまたはアップグレードするには

- 1 `haconf -makerw` を使用して読み取り/書き込みモードで VCS 構成を有効にします。
- 2 `hagrps -freeze nbu_group_name -persistent` を使用して、NetBackup グループをフリーズします。
- 3 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を無効にします。

```
touch /usr/openv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

- 4 NetBackup がインストールされているクラスタ内のそれぞれの非アクティブノードに、オプション製品をインストールします。インストールおよび構成の手順については、それぞれのオプション製品に関する NetBackup の特定のマニュアルを参照してください。
- 5 アクティブノードで、同じインストール手順を実行します。
- 6 `hagrps -unfreeze nbu_group_name -persistent` を使用して、NetBackup グループをアンフリーズします。
- 7 `haconf -dump -makero` を使用して読み取り専用モードで VCS 構成を有効にします。
- 8 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を有効にします。

```
rm -f /usr/openv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

Unix または Linux 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード

NetBackup 6.0 以降のバージョンからアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

メモ: NetBackup では、既存のフェールオーバー非対応 NetBackup サーバーの、フェールオーバー対応 NetBackup サーバーへのアップグレードはサポートされていません。シマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

メモ: NetBackup 7.6 とともにインストールされる最新の VCS エージェントを使用する必要があります。以前のバージョンのエージェントは、サポートされません。

NetBackup フェールオーバーサーバーをアップグレードする方法

- 1 カタログバックアップを含むクラスタ環境の有効なバックアップが存在することを確認します。

p.81 の「[クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成](#)」を参照してください。
- 2 クラスタ外で実行されている各 NetBackup サーバーについて、サーバーリストが正しいことを確認します。このリストには、NetBackup を実行できる各ノードの名前と仮想サーバーの名前が含まれている必要があります。
- 3 アップグレードを開始する前に、VCS NetBackup クラスタリソースをオフラインにします。

メモ: アクティブノードのアップグレード時に共有ディスクと IP リソースがオンラインであることを確認してください。

- 4 `haconf -makerw` を使用して読み取り/書き込みモードで VCS 構成を有効にします。
- 5 次のコマンドを実行して、NetBackup グループをフリーズします。

```
hagrp -freeze <nbu_group_name> -persistent
```

- 6 次のコマンドを使って NetBackup グループのすべてのノードの NetBackup クラスタエージェントを停止します。

```
haagent -stop NetBackup -force -sys <node>
```

- 7 アクティブノードに、NetBackup サーバーソフトウェアをインストールします。
次の点に注意してください。
 - 次に記載されている手順に従って、NetBackup のアップグレードを実行します。
『[NetBackup インストールガイド](#)』。
 - サーバー名を指定する必要がある場合は、サーバーの仮想名を指定します。

- 8 NetBackup サーバーがフェールオーバーできるそれぞれの非アクティブノードに、NetBackup サーバーソフトウェアをインストールします。

次の点に注意してください。

- 次に記載されている手順に従って、NetBackup のアップグレードを実行します。
『[NetBackup インストールガイド](#)』。
- サーバー名を指定する必要がある場合は、サーバーの仮想名を指定します。

- 9 NetBackup グループのすべてのノードで VCS NetBackup クラスタエージェントを起動します。次のコマンドを使用します。

```
haagent -start NetBackup -sys <node>
```

- 10 haconf -makerw を使用して読み取り/書き込みモードで VCS 構成を有効にします。

- 11 次のコマンドを使用して、NetBackup グループをアンフリーズします。

```
hagrps -unfreeze <nbu_group_name> -persistent
```

- 12 haconf -dump -makero を使用して読み取り専用モードで VCS 構成を有効にします。

- 13 NetBackup グループをオフラインにしてから、オンラインにします。

- 14 NetBackup サーバーがインストールされているそれぞれのノードで、NetBackup オプション製品をアップグレードします。

p.33 の「[UNIX または Linux 上の VCS での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード](#)」を参照してください。

- 15 NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。

p.84 の「[NetBackup 構成の検証](#)」を参照してください。

メモ: グループの凍結または解凍時に、構成の状態が読み書きモードにあることを確認してください。

Windows 上の Veritas Cluster Server での NetBackup

この章では以下の項目について説明しています。

- [Windows 上の Veritas Cluster Server での NetBackup について](#)
- [Windows 上の NetBackup Agent for VCS の概要](#)
- [Windows 上の VCS での NetBackup のインストール前提条件](#)
- [Windows 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール](#)
- [Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの構成](#)
- [Windows 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)
- [NetBackup サーバーの詳細監視について](#)
- [Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの詳細監視スクリプトの設定](#)
- [VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視の有効化](#)
- [VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視の無効化](#)

Windows 上の Veritas Cluster Server での NetBackup について

Veritas Cluster Server (VCS) は、クラスタ構成の高可用性ソリューションです。VCS を使用すると、システムおよびアプリケーションサービスを監視し、ハードウェアやソフトウェア

アの障害発生時に別のシステムでサービスを再起動できます。VCS について詳しくは、『Veritas Cluster Server 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup は、フェールオーバー非対応サーバーとして、および仮想ストレージユニットを含むスタンドアロンメディアサーバーとしてクラスタに構成できます。次を参照してください。『NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド』。

Windows 上の NetBackup Agent for VCS の概要

NetBackup Agent for VCS では、特定の NetBackup リソースを監視して、これらのリソースの状態を判断し、外部イベントに応じて NetBackup を起動または停止します。エージェントには VCS 型宣言およびエージェント実行可能ファイルが含まれます。エージェントは、NetBackup リソース形式で表されます。エージェントがアプリケーションの障害を検出すると、NetBackup サービスグループは、クラスタ内の別のシステムにフェールオーバーされます。NetBackup は、このシステムにインストールおよび構成します。

次の表は特定のエージェント操作を記述したものです。

オンライン (Online) NetBackup サービスをオンラインにします。

オフライン (Offline) NetBackup サービスをオフラインにします。

監視 (Monitor) NetBackup サービスの状態を検証します。また、詳細監視も利用可能です。

p.44 の「Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの詳細監視スクリプトの設定」を参照してください。

クリーニング (Clean) 予期しないオフライン操作、または無効なオンライン操作が検出されると、NetBackup デーモンをすべて停止します。

アドオン製品では、追加の監視機能を使用できます。

p.87 の「アドオンの監視の構成 (Windows)」を参照してください。

NetBackup では、VCS で Global Cluster Option (GCO) を使用できます。NetBackup と共に GCO を構成し、使用方法について詳しくは、次を参照してください。

『Symantec NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド』。

Windows 上の VCS での NetBackup のインストール前 提条件

NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールおよび構成するには、次の要件が満たされている必要があります。

- VCS および NetBackup 7.6 で、ハードウェアがサポートされていることを確認します。サポートされているストレージデバイスのリストについては、次の Web サイトを参照してください。
<http://entsupport.symantec.com>
- ストレージデバイスが正常にインストールおよび構成されて、Windows 環境で動作していることを確認します。ストレージデバイスの構成方法に関するセクションを参照してください。『Symantec NetBackup インストールガイド』。
- Veritas Storage Foundation HA がインストールされ、VCS が正しく構成されていることを確認します。NetBackup は VCS でサポートされるすべてのノードにインストールできます。NetBackup サービスグループは、インストール時に作成されます。
- VCS Windows (SFW-HA 4.1 と SFW-HA 4.2) の場合、NetBackup 7.6 のインストールまたはアップグレードを行う前に、TechNote 278307 から入手できるパッチがインストールされていることを確認してください。このパッチは、次の Web サイトで入手できます。
<http://entsupport.symantec.com/docs/278307>

メモ: まれに、NetBackup マスタークラスタのインストール後、リソースがサービスグループにインストールされないことがあります。形式「NetBackupVCS」のリソースが手動で追加された場合、NetBackupVCS の属性は空白になり、このリソースはクラスタサーバーでプローブできません。回避策については、テクニカルサポートチームに連絡してください。

- NetBackup 用のクラスタディスクグループおよびダイナミックボリュームが共有ストレージに作成されていることを確認します。作成方法について詳しくは、『Veritas Storage Foundation 管理者ガイド』を参照してください。
- NetBackup をインストールする前に、NetBackup が使用するすべてのディスクリソースを、Veritas Enterprise Administrator (VEA) に構成しておく必要があります。
- VCS の NetBackup リソースに仮想 IP アドレスおよび仮想ホスト名が割り当てられていることを確認します。NetBackup クラスタグループに対してのみこれらを使用します。仮想名に 15 文字を超える名前を指定することはできません。
また、クラスタで NetBackup のインストールが初めて実行されるノードのディスクリソースがオンラインであることも確認します。
- クラスタ化された NetBackup マスターサーバーでは、マスターサーバーがロボット制御ホストの場合、NetBackup をインストールする各ノードにロボットデバイスとテープデバイスを物理的に接続します。デバイスは SCSI またはファイバーチャネルで接続します。OS コマンドを使用してすべてのデバイスが正しく接続されていることを確認します。次を参照してください。『Symantec NetBackup デバイス構成ガイド』。
- NetBackup Enterprise Server 7.6 または NetBackup Server 7.6 のインストールプログラムおよび有効なライセンスキーを確認します。

- Windows では、プッシュインストールする場合、クラスタの両方のノードでパブリックネットワークの名前が同じである必要があります。
- すべてのノードの同じパスに NetBackup をインストールする必要があります。

Windows 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのインストール

この項では、Windows クラスタの VCS にフェールオーバーアプリケーションとして新規に NetBackup Enterprise Server をインストールおよび構成する方法について説明します。初期インストールを実行するのではなく、NetBackup をアップグレードする場合は、異なる手順を実行する必要があります。

p.42 の「[Windows 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。

インストールを始める前に次の注意事項を確認します。

- ここで説明する手順では、NetBackup フェールオーバーサーバーの新規インストールを想定しています。
- NetBackup がフェールオーバー可能な各ノードに同じ種類の NetBackup サーバーをインストールする必要があります。同じ NetBackup 構成で、別々のフェールオーバーマスターサーバーとフェールオーバーメディアサーバーを使用することはできません。
- VCS で NetBackup をクラスタグループとしていったん構成した後は、グループ名を変更しないでください。
- 仮想名に 15 文字を超える名前を指定することはできません。

インストールプログラムによって、次の処理が実行されます。

- アクティブノードに NetBackup がインストールされます。
- それぞれの非アクティブノードへのプッシュインストールが実行され、マスターサーバーで指定した単一ライセンスキーが格納されます。
- NetBackup リソースがオンラインになります。

次の手順は、VCS クラスタ内の NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする方法を示しています。

VCS クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする方法

- 1 クラスタのすべてのノードに NetBackup をインストールします。このインストールは次の方法で行うことができます。
 - (共有ディスクがオンラインになっている) クラスタノードにインストールし、クラスタの他のすべてのノードにプッシュインストールします。

または

- (共有ディスクがオンラインになっている) クラスタノードにインストールします。最初のノードへのインストール後に、クラスタの他のすべてのノードに手動でインストールします。

クラスタ環境に NetBackup をインストールする方法について、次の資料の指示に従ってください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。

- 2 サーバーのリストを指定するように求められたら、NetBackup フェールオーバーサーバーにアクセスする必要のあるサーバーをすべて入力します。
- 3 インストールの終了時にライセンスキーを追加した場合は、これらのキーをクラスタ内の各ノードにフェールオーバーおよび追加する必要があります。
p.87 の「[ライセンスキーの追加について](#)」を参照してください。
- 4 個別にインストールする必要のあるオプション製品をインストールします。
オプション製品の多くは固有のライセンスキーのみを必要とし、個別にインストールする必要はありません。詳しくは、特定のオプション製品に関する NetBackup のマニュアルを参照してください。
- 5 インストールが完了したら、NetBackup の構成に進みます。p.41 の「[Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの構成](#)」を参照してください。

Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの構成

Windows 上の VCS クラスタで NetBackup サーバーを構成するには、次の手順を実行します。

表 4-1 Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの構成

手順	処理
1	NetBackup の構成方法のガイドラインを確認します。 p.78 の「 NetBackup の構成ガイドライン 」を参照してください。
2	クラスタ内のデバイスを構成します。 p.79 の「 デバイスの構成ガイドライン 」を参照してください。 p.80 の「 デバイスの構成 」を参照してください。 メモ: デバイスはクラスタの各ノードで構成する必要があります。
3	NetBackup カタログバックアップのエントリが正しいことを確認します。 p.81 の「 クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成 」を参照してください。

手順	処理
4	<p>カタログバックアップの情報は共有ディスクに格納されるため、ノードごとに構成する必要はありません。</p> <p>バックアップポリシーを構成します。バックアップポリシーは共有ディスクに格納されるため、各ノードに対して構成する必要はありません。</p> <p>p.82 の「NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について」を参照してください。</p>
5	<p>デフォルトでは、NetBackup のオプション製品 (NetBackup Vault など) で障害が発生しても、NetBackup はフェールオーバーされません。サービスまたはオプション製品に障害が発生した場合に、NetBackup をフェールオーバーするように NetBackup のオプション製品を構成できます。</p> <p>p.87 の「アドオンの監視の構成 (Windows)」を参照してください。</p>
6	<p>NetBackup のインストールおよび構成が完了したら、NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。</p> <p>p.84 の「NetBackup 構成の検証」を参照してください。</p>

Windows 上の VCS での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード

NetBackup 6.0 以降のバージョンからアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

メモ: NetBackup では、既存のフェールオーバー非対応 NetBackup サーバーの、フェールオーバー対応 NetBackup サーバーへのアップグレードはサポートされていません。シマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

メモ: NetBackup クラスタ構成を手動で変更したり外部スクリプトによって変更されている場合には、NetBackup クラスタレジストリに正しく反映されていることを確認します。

NetBackup フェールオーバーサーバーをアップグレードする方法

- 1 カタログバックアップを含むクラスタ環境の有効なバックアップが存在することを確認します。

p.81 の「[クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成](#)」を参照してください。
- 2 クラスタ外で実行されている各 NetBackup サーバーについて、サーバーリストが正しいことを確認します。このリストには、NetBackup を実行できる各ノードの名前と仮想サーバーの名前が含まれている必要があります。
- 3 アップグレードを開始する前に、VCS NetBackup リソースをオフラインにします。

メモ: アクティブノードのアップグレード時に共有ディスクと IP リソースがオンラインであることを確認してください。

- 4 次に記載されている手順に従って、NetBackup のアップグレードを実行します。
『[NetBackup インストールガイド](#)』。
インストールプログラムによって、次の処理が実行されます。
 - アクティブノードの NetBackup がアップグレードされます。
 - それぞれの非アクティブノードへのプッシュインストールが実行されます。
 - NetBackup リソースがすべてオンラインになります。
- 5 NetBackup オプション製品をアップグレードして構成します。
オプション製品の多くはライセンスキーのみを必要とし、個別にアップグレードする必要はありません。特定のオプション製品のインストールと構成方法については、そのオプションに関する NetBackup のマニュアルを参照してください。

メモ: クラスタの NetBackup をアップグレードするとき、NetBackup のリソースはエラー状態になります。アップグレードの完了後にこのエラーを消去する必要があります。詳しくは、シマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

NetBackup サーバーの詳細監視について

詳細監視モードでは、NetBackup エージェントは NetBackup が使用できることを検証するスクリプトを実行します。この処理を実行するために、エージェントには、サンプルスクリプト DetailedMonitor.bat が用意されています。各自の構成の要件に合わせて、このスクリプトをカスタマイズできます。

メモ: 詳細監視を設定する前に、監視の基本レベルで NetBackup エージェントを実行する必要があります。

Windows 上の VCS での NetBackup サーバーの詳細監視スクリプトの設定

この項では、Windows 環境用の VCS にインストールされた NetBackup サーバーの詳細監視を設定する方法について説明します。スクリプトファイルは、サービスグループのシステムリストにあるすべてのノードに配置する必要があります。

Windows 上の VCS で NetBackup サーバーの詳細監視スクリプトを設定する方法

- 1 NetBackup agentを構成し、基本監視で実行します。
- 2 NetBackup サービスグループ内の各ノードに対し、ファイル `install_path¥bin¥cluster¥VCS¥DetailedMonitor.txt` のユーザーバックアップを実行するバックアップポリシーを作成します。

`install_path` は NetBackup のホームディレクトリです。

`C:¥Program Files¥VERITAS¥NetBackup` などのようになります。

たとえば、NetBackup サービスグループに 5 つのノードがある場合は、5 つの異なるポリシーを作成し、それぞれのポリシーで異なるノードを参照するように設定する必要があります。

- 3 次のファイルのコピーを作成し、構成に合うように編集します。

```
install_path¥bin¥cluster¥DetailedMonitor.bat
```

- VIRTSRVR を NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーの仮想サーバー名に置き換えます。
- その他の必要な編集を行います。

- 4 コマンドラインで次のコマンドを入力し、スクリプトがエラーなしで実行されることを確認します。

```
DetailedMonitorProd
```

- 5 次の項に進み、詳細監視を有効にします。

p.45 の「[VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視の有効化](#)」を参照してください。

VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視の有効化

この項では、VCS Cluster Manager から NetBackup サーバーの詳細監視オプションを設定する方法について説明します。

VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視を有効化する方法

- 1 クラスタエクスプローラで、NetBackup サービスグループを右クリックし、[オフライン (Offline)]を選択して、サービスグループをオフラインにするノードを選択します。
- 2 [はい (Yes)]をクリックします。
- 3 左側のペインで NetBackup リソースをクリックします。
- 4 [プロパティ (Properties)]タブで、リストから Monscript 属性を選択し、[編集 (Edit)]をクリックします。
- 5 作成した NetBackup 監視スクリプトのフルパスを入力します。
p.43 の「[NetBackup サーバーの詳細監視について](#)」を参照してください。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 構成を保存します。
- 8 左側のペインで、NetBackup サービスグループを右クリックし、[オンライン (Online)]を選択して、サービスグループをオンラインにするノードを選択します。
- 9 [はい (Yes)]をクリックします。

VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視の無効化

この項では、VCS Cluster Manager から NetBackup サーバーの詳細監視オプションを無効にする方法について説明します。

VCS Cluster Manager での NetBackup サーバーの詳細監視を無効化する方法

- 1 クラスタエクスプローラで、NetBackup サービスグループを右クリックし、[オフライン (Offline)]を選択して、サービスグループをオフラインにするノードを選択します。
- 2 [はい (Yes)]をクリックします。
- 3 左側のペインで NetBackup リソースをクリックします。
- 4 [プロパティ (Properties)]タブで、リストから Monscript 属性を選択し、[編集 (Edit)]をクリックします。
- 5 パス情報を削除します。

- 6 [OK]をクリックします。
- 7 構成を保存します。
- 8 左側のペインで、**NetBackup** サービスグループを右クリックし、[オンライン (Online)] を選択して、サービスグループをオンラインにするノードを選択します。
- 9 [はい (Yes)]をクリックします。

SunCluster での NetBackup

この章では以下の項目について説明しています。

- [SunCluster での NetBackup について](#)
- [SunCluster での NetBackup のインストール前提条件](#)
- [SunCluster に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト](#)
- [SunCluster での NetBackup のインストール](#)
- [SunCluster での NetBackup の構成](#)
- [SunCluster での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード](#)
- [SunCluster での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)
- [リソースグループをオンラインまたはオフラインにするための SunCluster コマンド](#)

SunCluster での NetBackup について

NetBackup では、Sun Cluster の HA Storage Plus オプションがサポートされます。これらのステップを手動で実行する方法について詳しくは、次を参照してください。

『[Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』。このドキュメントでは NetBackup のインストール方法と管理方法について詳しく説明しています。SunCluster の動作とそのインストールおよび管理の方法について詳しくは、SunCluster のマニュアルを参照してください。

NetBackup は、フェールオーバー非対応サーバーとして、および仮想ストレージユニットを含むスタンドアロンメディアサーバーとしてクラスタに構成できます。次を参照してください。『[NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド](#)』。

SunCluster での NetBackup のインストール前提条件

このトピックでは、SunCluster 環境で NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールおよび構成する前に満たすべき要件について説明します。

前提条件の種類	説明
一般的な前提条件	<p>次の前提条件は両タイプの SunCluster のインストール (HA Storage Plus とグローバルファイルシステム) に適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ SunCluster および NetBackup Enterprise Server 7.6 で、ハードウェアがサポートされることを確認します。サポートされているストレージデバイスのリストについては、次の Web サイトを参照してください。また、SunCluster のマニュアルも参照してください。 http://entsupport.symantec.com■ 仮想 IP アドレスおよび仮想ホスト名を NetBackup リソースグループに割り当てていることを確認します。NetBackup のリソースグループに対してのみこれらを使用します。■ NetBackup をインストールする各ノードにロボットデバイスとテープデバイスを物理的に接続します。デバイスは SCSI またはファイバーチャネルで接続します。OS コマンドを使用してすべてのデバイスが正しく接続されていることを確認します。次を参照してください。『Symantec NetBackup デバイス構成ガイド』。■ NetBackup をインストールする、クラスタの各ノードで、ssh または rsh を使用できることを確認します。root ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログオンできる必要があります。この必要があるのは、NetBackup サーバー、NetBackup オプション製品のインストール、アップグレード、構成を行うときだけです。インストールと構成を完了した後は ssh または rsh を無効にできます。■ NetBackup Enterprise Server 7.6 インストールプログラムおよび有効なライセンスキーを確認します。
HA Storage Plus の前提条件	<p>HA Storage Plus では、次の前提条件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ NetBackup データベースファイルおよびディレクトリ用に、十分な領域がディスクにあることを確認します。■ NetBackup を構成するコンピュータにディスクをマウントします。

前提条件の種類	説明
グローバルファイルシステムの前提条件	<p>グローバルファイルシステムでは、次の前提条件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 共有ディスクを構成して、NetBackup をインストールするすべてのクラスタノードにアクセス可能な状態にする必要があります。共有ディスクの作成および構成方法について詳しくは、SunCluster のマニュアルを参照してください。 ■ NetBackup データベースファイルおよびディレクトリ用に、十分な領域が共有ディスクにあることを確認します。 ■ すべてのノードでディスクを同時にマウントできる必要があります。
Zettabyte ファイルシステム (ZFS) の前提条件	<p>Zettabyte ファイルシステムでは、次の前提条件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 共有ディスクを構成して、NetBackup をインストールするすべてのクラスタノードにアクセス可能な状態にする必要があります。共有ディスクの作成および構成方法について詳しくは、SunCluster のマニュアルを参照してください。 ■ NetBackup データベースファイルおよびディレクトリ用に、十分な領域が共有ディスクにあることを確認します。 ■ zpool を作成し、プライマリノードつまり最初のノードで構成する必要があります。

SunCluster に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト

次の情報は、すべての SunCluster クラスタ構成に必要です。

リソース	例
NetBackup の仮想名:	vname
マウントポイント (共有ディレクトリのパス):	/opt/VRTSnbu
NetBackup データ用の HAStoragePlus のリソース	y または n

SunCluster での NetBackup のインストール

このトピックでは、SunCluster にフェールオーバーアプリケーションとして新規に NetBackup Enterprise Server をインストールする方法について説明します。初期イン

ストールを実行するのではなく、NetBackup をアップグレードする場合は、異なる手順を実行する必要があります。

p.53 の「[SunCluster での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。

インストールを始める前に次の注意事項を確認します。

- ここで説明する手順では、NetBackup フェールオーバーサーバーの新規インストールを想定しています。
- SunCluster の NetBackup リソースグループ名は、常に `scnb-harg` です。ユーザーはこの名前を設定することはできません。
- NetBackup とともに SunCluster リソースファイル `scnb.VRTS` および `scnb.conf` がインストールされますが、この 2 つのファイルは編集しないでください。

メモ: クラスタ構成はインストール処理と共に実行されます。クラスタの構成を実行するために `cluster_config` スクリプトを実行しないでください。

次の手順は、SunCluster 内の NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールして構成する方法を示しています。

メモ: SunCluster で NetBackup を正しくフリーズおよびアンフリーズするには、追加のコマンドが必要です。これは、Sun のバグ [#5017826](#) が原因です。自動再起動が有効な状態で NetBackup を `pmf` から起動すると、タグが無効な場合は `pmf` が介入します。この介入は、監視が有効かどうかにかかわらず行われます。

メモ: 共有ディスクがグローバルファイルシステム (GFS) を使用する RAW ディスクであり、プライマリ (アクティブな) ノードの電源がオフである場合、共有ディスクは残りのノードのいずれからもアクセスできません。その結果、NetBackup サーバーは他のどのノードでもオンラインになりません。

SunCluster で NetBackup をインストールする方法

- 1 全構成のチェックリストおよび固有の環境のチェックリストに記入します。
p.49 の「[SunCluster に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト](#)」を参照してください。
- 2 NetBackup のインストール方法について詳しくは、次を参照してください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。

次の点に注意してください。

- NetBackup がフェールオーバーできる各ノードに NetBackup をインストールします。

- NetBackup サーバー名には仮想名を使用します。

注意: プロンプトが表示されたら、インストール中に指定したのと同じ仮想クラスタ名を指定する必要があります。この名前は、大文字/小文字が区別され、すべてのノードで同じ形式 (FQDN/短縮) になっている必要があります。

- 3 NetBackup をクラスタ設定でインストールしている場合は、確認のプロンプトが表示されます。
 - NetBackup を最初のノードにインストールするときに、NetBackup クラスタの作成を確認するプロンプトが表示されます。NetBackup を HA モードで設定するには、「Yes」と入力します。
 - NetBackup を以降のノードにインストールするときに、すでに作成されている NetBackup クラスタグループの情報が表示されます。グループに参加するように求められます。
- 4 クラスタ固有の構成の詳細を入力するためのプロンプトが表示された場合は、チェックリストを参照し、それに応じて詳細を入力します。
- 5 NetBackup をクラスタにインストールできるようにします。NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールすると、次のようになります。
 - 最初のノードで、NetBackup の単一ノードクラスタのリソースグループが作成され、オンラインになります。
 - 他のノードでは、インストールされたノードがクラスタのリソースグループに追加されます。
- 6 NetBackup オプション製品をインストールします。
NetBackup オプション製品をインストールする前に、NetBackup グループをフリーズする必要があります。
p.52 の「SunCluster での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード」を参照してください。
- 7 NetBackup の構成を続行します。p.51 の「SunCluster での NetBackup の構成」を参照してください。

SunCluster での NetBackup の構成

クラスタで NetBackup サーバーを構成するには、次の操作を実行します。

表 5-1 SunCluster での NetBackup の構成

手順	処理
1	NetBackup の構成方法のガイドラインを確認します。 p.78 の「 NetBackup の構成ガイドライン 」を参照してください。
2	クラスタ内のデバイスを構成します。 p.79 の「 デバイスの構成ガイドライン 」を参照してください。 p.80 の「 デバイスの構成 」を参照してください。 メモ: デバイスはクラスタの各ノードで構成する必要があります。
3	NetBackup カタログバックアップのエントリが正しいことを確認します。 p.81 の「 クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成 」を参照してください。 カタログバックアップの情報は共有ディスクに格納されるため、ノードごとに構成する必要はありません。
4	バックアップポリシーを構成します。バックアップポリシーは共有ディスクに格納されるため、各ノードに対して構成する必要はありません。 p.82 の「 NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について 」を参照してください。
5	NetBackup の構成が完了したら、NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。 p.84 の「 NetBackup 構成の検証 」を参照してください。

SunCluster での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード

オプション製品をインストールまたはアップグレードするには、フェールオーバーを発生させずに NetBackup デーモンをオフラインにする必要があります。NetBackup の監視は停止されるが、NetBackup リソースはオンラインのまま保たれるように SunCluster を構成する必要があります。

p.85 の「[ロボットデーモンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)」を参照してください。

p.86 の「[アドオンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)」を参照してください。

NetBackup オプション製品をインストールまたはアップグレードする方法

- 1 次のコマンドを実行して NetBackup グループをフリーズします。

```
/usr/cluster/bin/scswitch -n -j scnb-hars
```

- 2 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を無効にします。

```
touch /usr/opensv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

- 3 アクティブノードで、任意の NetBackup オプション製品をインストールまたはアップグレードします。インストールおよび構成の手順については、それぞれのオプション製品に関する NetBackup の特定のマニュアルを参照してください。

- 4 非アクティブノードで、同じインストール手順を実行します。

- 5 オプション製品のインストールが完了したら、次のコマンドを実行します。

```
/usr/cluster/bin/scswitch -e -j scnb-hars
```

- 6 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を有効にします。

```
rm -f /usr/opensv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

NetBackup リソースがオンラインになり、SunCluster で NetBackup リソースの監視が再開されます。

SunCluster での NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード

NetBackup をアップグレードする場合には、次の手順を実行します。以前のバージョンの NetBackup とともにインストールされた SunCluster エージェントも必要です。

メモ: NetBackup では、既存のフェールオーバー非対応 NetBackup サーバーの、フェールオーバー対応 NetBackup サーバーへのアップグレードはサポートされていません。シマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

SunCluster で NetBackup フェールオーバーサーバーをアップグレードする方法

- 1 カタログバックアップを含むクラスタ環境の有効なバックアップが存在することを確認します。

p.81 の「[クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成](#)」を参照してください。

- 2 クラスタ外で実行されている各 NetBackup サーバーについて、サーバーリストが正しいことを確認します。このリストには、NetBackup を実行できる各ノードの名前と仮想サーバーの名前が含まれている必要があります。

- 3 次のコマンドを実行して NetBackup を未監視の状態にします。

```
/usr/cluster/bin/scswitch -n -j scnb-hars
```

- 4 アクティブノードに、NetBackup サーバーをインストールします。

次の点に注意してください。

- NetBackup サーバーをインストールする方法について、次の資料の指示に従ってください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。
- サーバー名を指定する必要がある場合は、サーバーの仮想名を指定します。

- 5 NetBackup サーバーがフェールオーバーできるそれぞれの非アクティブノードに、NetBackup サーバーソフトウェアをインストールします。

次の点に注意してください。

- NetBackup サーバーをインストールする方法について、次の資料の指示に従ってください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。
- サーバー名を指定する必要がある場合は、サーバーの仮想名を指定します。

- 6 次のコマンドを実行します。

```
/usr/cluster/bin/scswitch -e -j scnb-hars
```

NetBackup リソースがオンラインになり、SunCluster で NetBackup リソースの監視が再開されます。

- 7 NetBackup リソースグループをオフラインにしてから、オンラインにします。

- 8 NetBackup サーバーがインストールされている各ノードで、NetBackup オプション製品をアップグレードします。

オプション製品をインストールする前に NetBackup グループを凍結する必要があります。

p.52 の「SunCluster での NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード」を参照してください。

- 9 NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。

p.84 の「NetBackup 構成の検証」を参照してください。

リソースグループをオンラインまたはオフラインにするための SunCluster コマンド

NetBackup リソースグループをオンラインまたはオフラインにするには、専用の SunCluster コマンドを使用する必要があります。これらのコマンドについて詳しくは、SunCluster のマニュアルを参照してください。

表 5-2 は、NetBackup リソースグループをオンラインまたはオフラインにするために使用するコマンドを示しています。

表 5-2 SunCluster のコマンド

処理	入力するコマンド
NetBackup リソースグループをオンラインにする方法	<code>/usr/cluster/bin/scswitch -z -g scnb-harg -h hostname</code>
NetBackup リソースグループをオフラインにする方法	<code>/usr/cluster/bin/scswitch -F -g scnb-harg</code>
NetBackup リソースがオンラインであることを確認する	<code>/usr/cluster/bin/scstat -g</code>

HP Service Guard クラスタでの NetBackup

この章では以下の項目について説明しています。

- [HP Service Guard クラスタでの NetBackup について](#)
- [HP Service Guard クラスタでの NetBackup のインストール前提条件](#)
- [HP Service Guard クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト](#)
- [HP Service Guard クラスタでの NetBackup のインストール](#)
- [HP Service Guard クラスタでの NetBackup の構成](#)
- [HP Service Guard クラスタでの NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード](#)
- [HP Service Guard クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)
- [リソースグループをオンラインまたはオフラインにするための Service Guard コマンド](#)

HP Service Guard クラスタでの NetBackup について

HP Service Guard はクラスタ構成の高可用性ソリューションです。HP Service Guard を使用すると、システムおよびアプリケーションサービスを監視し、ハードウェアやソフトウェアの障害発生時に別のシステムでサービスを再起動できます。Service Guard の動作とそのインストールおよび管理の方法について詳しくは、Service Guard のマニュアルを参照してください。

これらのステップを手動で実行する方法については、次を参照してください。

『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。このドキュメントでは NetBackup のインストール方法と管理方法について詳しく説明しています。

NetBackup は、フェールオーバー非対応サーバーとして、および仮想ストレージユニットを含むスタンドアロンメディアサーバーとしてクラスタに構成できます。次を参照してください。『NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド』。

HP Service Guard クラスタでの NetBackup のインストール前提条件

Service Guard 環境に NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールおよび構成するには、次の要件が満たされている必要があります。

- Service Guard および NetBackup Enterprise Server 7.6 で、ハードウェアがサポートされていることを確認します。サポートされているストレージデバイスのリストについては、次の Web サイトを参照してください。また、Service Guard のマニュアルも参照してください。
<http://entsupport.symantec.com>
- サポートされているバージョンの Service Guard が正しくインストールされ、構成されていることを確認します。
- 仮想 IP アドレスと仮想ホスト名を NetBackup リソースに排他的に割り当てていることを確認します。このリリースの NetBackup では IPv6 がサポートされています。
p.93 の「NetBackup の IPv6 サポートについて」を参照してください。
- 共有ディスクを構成して、NetBackup をインストールするすべてのクラスタノードにアクセス可能な状態にする必要があります。共有ディスクの作成および構成については、Service Guard と適切な Volume Manager (Veritas または HP) のマニュアルを参照してください。NetBackup データベースファイルおよびディレクトリ用に、十分な領域が共有ディスクにあることを確認します。また、ディスクがどのシステムにもマウントされていないこと、およびすべてのボリュームグループがオフラインで、ボリュームが NetBackup のインストール前に停止していることを確認します。
- データベースを複数の共有ディスクに分散して、パフォーマンスを向上できます。この構成は最初のクラスタ構成後に実行できます。
- NetBackup をインストールする各ノードにロボットデバイスとテープデバイスを物理的に接続します。デバイスは SCSI またはファイバーチャネルで接続します。OS コマンドを使用してすべてのデバイスが正しく接続されていることを確認します。次を参照してください。『Symantec NetBackup デバイス構成ガイド』。
- NetBackup をインストールする、クラスタの各ノードで、remsh を使用できることを確認します。root ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログオンできることが必要です。この必要があるのは、NetBackup サーバー、

NetBackup オプション製品のインストール、アップグレード、構成を行うときだけです。インストールと構成を完了した後は remsh を無効にできます。

- NetBackup Enterprise Server 7.6 インストールプログラムおよび有効なライセンスキーを確認します。

HP Service Guard クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト

NetBackup Enterprise Server は、インストール中に特定のクラスタ関連情報を要求します。インストールを開始する前に、全構成のチェックリストおよび固有の構成のチェックリストに記入します。

次の情報は、すべての HP Service Guard クラスタ構成に必要です。

表 6-1 すべての HP Service Guard クラスタ構成

リソース	例
NetBackup の仮想名:	vname
IP アドレス:	10.209.14.54
仮想名のサブネット:	10.209.14.0

次の情報は、異なる構成で HP Service Guard を使用する場合に必要です。

表 6-2 VxVM ボリュームグループを使用する場合の HP Service Guard

リソース	例
ディスクグループ名:	nbudg
論理ボリュームパス:	dev/dsk/nbudg/nbuvol
マウントポイント:	/opt/VRTSnbu
ファイルシステム:	vxfs
マウントオプション:	
マウント解除オプション:	
fsk オプション:	

表 6-3 Veritas Cluster Volume Manager を使用する場合の HP Service Guard

リソース	例
ディスクグループ名:	nbudg
論理ボリュームパス:	/dev/dsk/nbudg/nbuvol
マウントポイント:	/opt/VTRSnbu
ファイルシステム:	vxfs
マウントオプション:	
マウント解除オプション:	
fsk オプション:	

表 6-4 LVM ボリュームグループを使用する場合の HP Service Guard

リソース	例
ディスクグループ名:	nbuvg
論理ボリュームパス:	dev/nbuvg/lvo1
マウントポイント:	opt/VRTSnbu
ファイルシステム:	vxfs
マウントオプション:	
マウント解除オプション:	
fsk オプション:	

HP Service Guard クラスタでの NetBackup のインストール

この項では、Service Guard クラスタにフェールオーバーアプリケーションとして NetBackup Enterprise Server をインストールする方法について説明します。初期インストールを実行するのではなく、NetBackup をアップグレードする場合は、異なる手順を実行する必要があります。

p.63 の「[HP Service Guard クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。

インストールを始める前に次の注意事項を確認します。

- ここで説明する手順では、NetBackup フェールオーバーサーバーの新規インストールを想定しています。
- Service Guard クラスタにおける NetBackup パッケージ名は、常に NetBackup です。ユーザーはこの名前を設定することはできません。
- 次のパッケージ ASCII ファイルは、NetBackup とともにインストールされます。このファイルで、任意の timeout 設定の値を変更することができます。タイムアウトに関連しない設定は変更しないでください。

```
/etc/cmcluster/netbackup/netbackup.config
```

メモ: クラスタ構成はインストール処理と共に実行されます。クラスタの構成を実行するために `cluster_config` スクリプトを実行しないでください。

次の手順は、Service Guard クラスタ上の NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールして構成する方法を示しています。

HP Service Guard クラスタに NetBackup をインストールする方法

- 1 全構成のチェックリストおよび固有の環境のチェックリストに記入します。
p.58 の「[HP Service Guard クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト](#)」を参照してください。
- 2 クラスタ内のすべてのノードで共有ディスクがマウントされていないことを確認します。
マウントされている場合は、NetBackup 共有マウントポイントをマウント解除します。マウントポイントが有効なボリュームを停止し、クラスタのすべてのノードでそのボリュームのディスクグループを停止します。
- 3 NetBackup のインストール方法について詳しくは、次を参照してください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。

次の点に注意してください。

- NetBackup がフェールオーバーできる各ノードに NetBackup をインストールします。
- NetBackup サーバー名には仮想名を使用します。

注意: プロンプトが表示されたら、インストール中に指定したのと同じ仮想クラスタ名を指定する必要があります。この名前は、大文字/小文字が区別され、すべてのノードで同じ形式 (FQDN/短縮) になっている必要があります。

- 4 NetBackup をクラスタ設定でインストールしている場合は、確認のプロンプトが表示されます。

- NetBackup を最初のノードにインストールするときに、NetBackup クラスタの作成を確認するプロンプトが表示されます。NetBackup を HA モードで設定するには、「Y」と入力します。
 - NetBackup を以降のノードにインストールしている間、すでに作成されている NetBackup クラスタグループの情報が表示されます。グループに参加するように求められます。
- 5 クラスタ固有の構成の詳細を入力するためのプロンプトが表示された場合は、チェックリストを参照し、それに応じて詳細を入力します。
 - 6 NetBackup をクラスタにインストールできるようにします。NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールすると、次のようになります。
 - 最初のノードで、NetBackup の単一ノードクラスタのリソースグループが作成され、オンラインになります。
 - 他のノードでは、インストールされたノードがクラスタのリソースグループに追加されます。
 - 7 NetBackup の構成を続行します。p.61 の「[HP Service Guard クラスタでの NetBackup の構成](#)」を参照してください。

HP Service Guard クラスタでの NetBackup の構成

クラスタで NetBackup サーバーを構成するには、次の操作を実行します。

表 6-5 HP Service Guard クラスタでの NetBackup の構成

手順	処理
1	NetBackup の構成方法のガイドラインを確認します。 p.78 の「 NetBackup の構成ガイドライン 」を参照してください。
2	クラスタ内のデバイスを構成します。 p.79 の「 デバイスの構成ガイドライン 」を参照してください。 p.80 の「 デバイスの構成 」を参照してください。 メモ: デバイスはクラスタの各ノードで構成する必要があります。
3	NetBackup カタログバックアップのエントリが正しいことを確認します。 p.81 の「 クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成 」を参照してください。 カタログバックアップの情報は共有ディスクに格納されるため、ノードごとに構成する必要はありません。

手順	処理
4	バックアップポリシーを構成します。バックアップポリシーは共有ディスクに格納されるため、各ノードに対して構成する必要はありません。 p.82 の「 NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について 」を参照してください。
5	NetBackup の構成が完了したら、NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。p.84 の「 NetBackup 構成の検証 」を参照してください。

HP Service Guard クラスタでの NetBackup オプション製品のインストールまたはアップグレード

オプション製品をインストールまたはアップグレードするには、フェールオーバーを発生させずに NetBackup デーモンをオフラインにする必要があります。NetBackup の監視は停止されるが、NetBackup リソースはオンラインのまま(または停止状態に)保たれるように Service Guard を構成します。

p.85 の「[ロボットデーモンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)」を参照してください。

p.86 の「[アドオンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)」を参照してください。

HP Service Guard クラスタで NetBackup オプション製品をインストールまたはアップグレードする方法

- 1 次のコマンドを実行して、NetBackup を停止状態にします。

```
cmmodpkg -d netbackup
```

- 2 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を無効にします。

```
touch /usr/openv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

- 3 NetBackup サーバーがインストールされているアクティブノードで、オプション製品をインストールします。インストールおよび構成の手順については、それぞれのオプション製品に関する NetBackup の特定のマニュアルを参照してください。
- 4 それぞれの非アクティブノードで、同じインストール手順を実行します。

- 5 エージェントまたはオプション製品のインストールが完了したら、次のコマンドを実行します。

```
cmmmodpkg -e netbackup
```

- 6 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を有効にします。

```
rm -f /usr/openv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

NetBackup リソースがオンラインになり、Service Guard で NetBackup リソースの監視が再開されます。

HP Service Guard クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード

NetBackup フェールオーバーサーバーをアップグレードするには、次の手順を実行します。

メモ: HP Service Guard クラスタで NetBackup をアップグレードする前に、TechNote 145810 を参照してください。

HP Service Guard クラスタで NetBackup フェールオーバーサーバーをアップグレードする方法

- 1 カタログバックアップを含むクラスタ環境の有効なバックアップが存在することを確認します。

p.81 の「[クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成](#)」を参照してください。

- 2 クラスタ外で実行されている各 NetBackup サーバーについて、サーバーリストが正しいことを確認します。このリストには、NetBackup を実行できる各ノードの名前と仮想サーバーの名前が含まれている必要があります。

- 3 次のコマンドを実行して、NetBackup を停止状態にします。

```
cmmmodpkg -d netbackup
```

- 4 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を無効にします。

```
touch /usr/openv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

- 5 アクティブノードに、NetBackup サーバーをインストールします。

次の点に注意してください。

- 次に記載されている手順に従って、NetBackup サーバーをインストールします。
[『NetBackup インストールガイド』](#)。
 - サーバー名を指定する必要がある場合は、サーバーの仮想名を指定します。
- 6 NetBackup サーバーがフェールオーバーできるそれぞれの非アクティブノードに、NetBackup サーバーをインストールします。
- 次の点に注意してください。
- 次に記載されている手順に従って、NetBackup サーバーをインストールします。
[『NetBackup インストールガイド』](#)。
 - サーバー名を指定する必要がある場合は、サーバーの仮想名を指定します。
- 7 Service Guard クラスタの NetBackup では、アップグレード中に、データベースが作成されたことを示すメッセージが 2 回表示されます。これらのメッセージが表示されるのは、install_bp の実行中にデータベースがデフォルトの場所 (/usr/opensv/db/) に作成されるためです。その後、共有ディスクに移動または再作成されます。
- 8 次のコマンドを実行します。
- ```
cmmodpkg -e netbackup
```
- 9 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を有効にします。
- ```
rm -f /usr/opensv/netbackup/bin/cluster/frozen
```
- NetBackup リソースがオンラインになり、Service Guard で NetBackup リソースの監視が再開されます。
- 10 NetBackup リソースグループをオフラインにしてから、オンラインにします。p.64 の「リソースグループをオンラインまたはオフラインにするための Service Guard コマンド」を参照してください。
- 11 NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。
 p.84 の「NetBackup 構成の検証」を参照してください。

リソースグループをオンラインまたはオフラインにするための Service Guard コマンド

NetBackup リソースグループをオンラインまたはオフラインにするには、専用の Service Guard コマンドを使用する必要があります。これらのコマンドについて詳しくは、Service Guard のマニュアルを参照してください。

表 6-6 は、NetBackup リソースグループをオンラインまたはオフラインにするために使用するコマンドを示しています。

表 6-6 HP Service Guard コマンド

作業	コマンド
NetBackup リソースグループをオンラインにする	/usr/sbin/cmrunpkg netbackup
NetBackup リソースグループをオフラインにする	/usr/sbin/cmhaltpkg netbackup
NetBackup リソースがオンラインであることを確認する	/usr/sbin/cmviewcl

HACMP for AIX クラスタでの NetBackup

この章では以下の項目について説明しています。

- [HACMP for AIX クラスタでの NetBackup について](#)
- [HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール前提条件](#)
- [HACMP for AIX クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト](#)
- [HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール](#)
- [HACMP for AIX クラスタでの NetBackup の構成](#)
- [HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール](#)
- [HACMP for AIX クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード](#)
- [NetBackup リソースグループのオンライン化またはオフライン化](#)

HACMP for AIX クラスタでの NetBackup について

この章では、High Availability Cluster Multiprocessing (HACMP) を使用して NetBackup Enterprise Server を高可用性アプリケーションとしてインストールおよび構成する方法について説明します。

HACMP は、クラスタ構成の高可用性ソリューションです。HACMP を使用すると、システムおよびアプリケーションサービスを監視し、ハードウェアやソフトウェアの障害発生時に別のシステムでサービスを再起動できます。HACMP の動作とそのインストールおよび管理の方法について詳しくは、HACMP のマニュアルを参照してください。

これらのステップを手動で実行する方法については、次を参照してください。

『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。このドキュメントでは NetBackup のインストール方法と管理方法について詳しく説明しています。

NetBackup は、フェールオーバー非対応サーバーとして、および仮想ストレージユニットを含むスタンドアロンメディアサーバーとしてクラスタに構成できます。詳しくは、次を参照してください。『NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド』。

HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール前提条件

この項では、HACMP 環境で NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールおよび構成する前に満たすべき要件について説明します。

- HACMP および NetBackup Enterprise Server 7.6 で、ハードウェアがサポートされることを確認します。サポートされているストレージデバイスのリストについては、次の Web サイトを参照してください。また、HACMP のマニュアルも参照してください。
<http://entsupport.symantec.com>
- サポート対象のバージョンの AIX がインストールされていることを確認します。
- サポート対象のバージョンの HACMP が正しくインストールされ、構成されていることを確認します。クラスタの検証と同期も問題なく実行できる必要があります。
- NetBackup をインストールする各ノードにロボットデバイスとテープデバイスを物理的に接続します。デバイスは SCSI またはファイバーチャネルで接続します。OS コマンドを使用してすべてのデバイスが正しく接続されていることを確認します。次を参照してください。『Symantec NetBackup デバイス構成ガイド』。
- NetBackup をインストールする、クラスタの各ノードで、ssh または rsh を使用できることを確認します。root ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログオンできることが必要です。この機能が必要なのは、NetBackup サーバー、NetBackup オプション製品のインストール、アップグレード、構成を行うときだけです。インストールと構成を完了したら ssh または rsh を無効にできます。
- 構成されているすべてのノードの NetBackup リソースグループで利用できる既存のファイルシステムが必要です。このファイルシステムは NetBackup を構成するすべてのノードにアクセス可能なボリュームグループに存在する必要があります。既存の HACMP リソースグループのリソースとして構成しないでください。また、ノードでブート時にマウントされるように構成しないでください。
- NetBackup の構成に使用するサービス IP アドレスおよび関連付けられた名前 (仮想名) が設定されていることを確認します。この名前とアドレスは、NetBackup のインストール前に、すべてのノードの /etc/hosts ファイルに存在する必要があります。
- IP 置換による IPAT をサービスアドレスに使用する場合、HACMP で構成する必要があります。サービスアドレスは NetBackup のインストールを開始する前に構成する

必要があります。サービスアドレスはリソースグループに割り当てられていない必要があります。この構成は、NetBackup をインストールする前に完了する必要があります。

- IP エイリアスによる IPAT を使用する場合、NetBackup をインストールする前に HACMP でサービスアドレスを構成する必要はありません。サービスアドレスは、『HACMP 計画とインストールのガイド』のクラスタのネットワーク接続の計画に関するトピックに説明されている制限に準拠している必要があります。サービスが構成済みである場合、サービスアドレスはリソースグループに割り当てられていない必要があります。
- NetBackup を構成する前に、クラスタを安定させて、検証と同期が正常に実行されるようにしておく必要があります。
- NetBackup Enterprise Server 7.6 インストールプログラムおよび有効なライセンスキーを確認します。

HACMP for AIX クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト

NetBackup Enterprise Server は、インストール中に特定のクラスタ関連情報を要求します。インストールを開始する前に、全構成のチェックリストおよび固有の構成のチェックリストに記入します。

次の情報は、すべての HACMP クラスタ構成に必要です。

表 7-1 全ての HACMP クラスタ構成

リソース	例
NetBackup リソースグループ名:	netbackup
NetBackup サーバーリソース名:	nbu_server
共有ストレージのマウントポイント:	/nbha1
共有ストレージの最上位ディレクトリ:	/nbha1/dir1

次の情報は、HACMP を使用している場合に必要です。

表 7-2 IP エイリアスによる IPAT を使用する場合の HACMP

リソース	例
NetBackup 仮想名:	vname
HACMP ネットワーク名:	net_ether_01

表 7-3 IP 置換による IPAT を使用する場合の HACMP

リソース	例
NetBackup 仮想名:	vname

HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール

このトピックでは、HACMP クラスタにフェールオーバーアプリケーションとして NetBackup Enterprise Server をインストールする方法について説明します。

次の手順は、HACMP クラスタ内の NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする方法を示しています。

メモ: クラスタ構成スクリプトの次のような警告メッセージは無視しても問題ありません。ネットワークインターフェースに複数のアドレスがある場合は常に、検証と同期の実行時にこれらのメッセージが表示されます。

警告: ノード `blazer`、ネットワーク `net_ether_01` で定義されている通信インターフェースの数が十分でない可能性があります。IP エイリアスを使用する予定のあるネットワークでは、複数の通信インターフェースを推奨します。

HACMP for AIX クラスタに NetBackup をインストールする方法

- 1 全構成のチェックリストおよび固有の環境のチェックリストに記入します。
p.68 の「[HACMP for AIX クラスタに NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールする場合のインストール前チェックリスト](#)」を参照してください。
- 2 Netbackup によって使用される既存のファイルシステムのボリュームグループが、NetBackup のクラスタインストールを開始するノードでオンになっている必要があります。ボリュームグループがオンになっていない場合、インストーラによって、共有可能なファイルシステムとして検出されないことがあります。ボリュームグループをオンにするには、次のコマンドを使います。

```
varyonvg <volume group name>
```
- 3 NetBackup のインストール方法について詳しくは、次を参照してください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。
次の点に注意してください。
 - NetBackup がフェールオーバーできる各ノードに NetBackup をインストールします。
 - NetBackup サーバー名には仮想名を使用します。

注意: プロンプトが表示されたら、インストール中に指定したのと同じ仮想クラスタ名を指定する必要があります。この名前は、大文字/小文字が区別され、すべてのノードで同じ形式 (FQDN/短縮) になっている必要があります。

- 4 NetBackup をクラスタ設定でインストールしている場合は、確認のプロンプトが表示されます。
 - NetBackup を最初のノードにインストールするときに、NetBackup クラスタの作成を確認するプロンプトが表示されます。NetBackup を HA モードで設定するには、「Y」と入力します。
 - NetBackup を以降のノードにインストールしている間、すでに作成されている NetBackup クラスタグループの情報が表示されます。グループに参加するように求められます。
- 5 クラスタ固有の構成の詳細を入力するためのプロンプトが表示された場合は、チェックリストを参照し、それに応じて詳細を入力します。
NetBackup をクラスタにインストールできるようにします。NetBackup フェールオーバーサーバーをインストールすると、次のようになります。
 - 最初のノードで、NetBackup の単一ノードクラスタのリソースグループが作成され、オンラインになります。
 - 他のノードでは、インストールされたノードがクラスタのリソースグループに追加されます。
- 6 NetBackup の構成を続行します。
p.70 の「[HACMP for AIX クラスタでの NetBackup の構成](#)」を参照してください。

HACMP for AIX クラスタでの NetBackup の構成

クラスタで NetBackup サーバーを構成するには、次の操作を実行します。

表 7-4 HACMP for AIX クラスタでの NetBackup の構成

手順	処理
1	NetBackup の構成方法のガイドラインを確認します。 p.78 の「 NetBackup の構成ガイドライン 」を参照してください。
2	クラスタ内のデバイスを構成します。 p.79 の「 デバイスの構成ガイドライン 」を参照してください。 p.80 の「 デバイスの構成 」を参照してください。 メモ: デバイスはクラスタの各ノードで構成する必要があります。

手順	処理
3	<p>NetBackup カタログバックアップのエントリが正しいことを確認します。</p> <p>p.81 の「クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成」を参照してください。</p> <p>カタログバックアップの情報は共有ディスクに格納されるため、ノードごとに構成する必要はありません。</p>
4	<p>バックアップポリシーを構成します。バックアップポリシーは共有ディスクに格納されるため、各ノードに対して構成する必要はありません。</p> <p>p.82 の「NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について」を参照してください。</p>
5	<p>NetBackup の構成が完了したら、NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。</p> <p>p.84 の「NetBackup 構成の検証」を参照してください。</p>

HACMP for AIX クラスタでの NetBackup のインストール

NetBackup オプション製品をインストールするには、フェールオーバーを発生させずに NetBackup デーモンをオフラインにする必要があります。NetBackup の監視は停止されるが、NetBackup リソースはオンラインのまま保たれるように HACMP を構成します。

p.85 の「[ロボットデーモンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)」を参照してください。

p.86 の「[アドオンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)」を参照してください。

HACMP for AIX クラスタに NetBackup オプション製品をインストールする方法

- 1 次のコマンドを入力し、NetBackup リソースグループの監視を行うアプリケーションを無効にします。

```
smitty hacmp
```

- 2 [System Management (C-SPOC)]を選択します。
- 3 [HACMP Resource Group and Application Management]を選択します。
- 4 [Suspend/Resume Application Monitoring]を選択します。
- 5 [Suspend Application Monitoring]を選択します。
- 6 NetBackup サーバーを選択し、Enter キーを押します。
- 7 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を無効にします。

```
touch /usr/openv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

- 8 NetBackup サーバーがインストールされているアクティブノードで、NetBackup オプション製品をインストールまたはアップグレードします。インストールおよび構成の手順については、それぞれのオプション製品に関する NetBackup の特定のマニュアルを参照してください。
- 9 非アクティブノードで、同じインストール手順を実行します。
- 10 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を有効にします。

```
rm -f /usr/opensv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

- 11 次のコマンドを入力し、NetBackup リソースグループの監視を行うアプリケーションを有効にします。

```
smitty hacmp
```

- 12 [System Management (C-SPOC)]を選択します。
- 13 [HACMP Resource Group and Application Management]を選択します。
- 14 [Suspend/Resume Application Monitoring]を選択します。
- 15 [Resume Application Monitoring]を選択します。
- 16 NetBackup サーバーを選択し、Enter キーを押します。

HACMP for AIX クラスタでの NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグレード

NetBackup 6.0 以降からアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

メモ: NetBackup では、既存のフェールオーバー非対応 NetBackup サーバーの、フェールオーバー対応 NetBackup サーバーへのアップグレードはサポートされていません。シマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

HACMP for AIX クラスタで NetBackup フェールオーバーサーバーをアップグレードする方法

- 1 カタログバックアップを含むクラスタ環境の有効なバックアップが存在することを確認します。

p.81 の「[クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成](#)」を参照してください。

- 2 クラスタ外で実行されている各 NetBackup サーバーについて、サーバーリストが正しいことを確認します。このリストには、NetBackup を実行できる各ノードの名前と仮想サーバーの名前が含まれている必要があります。
- 3 次のコマンドを入力し、NetBackup リソースグループの監視を行うアプリケーションを無効にします。

```
smitty hacmp
```

- 4 [System Management (C-SPOC)]を選択します。
- 5 [HACMP Resource Group and Application Management]を選択します。
- 6 [Suspend/Resume Application Monitoring]を選択します。
- 7 [Suspend Application Monitoring]を選択します。
- 8 NetBackup サーバーを選択し、Enter キーを押します。
- 9 アクティブノードに、NetBackup サーバーソフトウェアをインストールします。

次の点に注意してください。

- NetBackup サーバーをインストールする方法について、次の資料の指示に従ってください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。
- サーバー名を指定する必要がある場合は、サーバーの仮想名を指定します。

- 10 NetBackup サーバーがフェールオーバーできるそれぞれの非アクティブノードに、NetBackup サーバーソフトウェアをインストールします。

次の点に注意してください。

- NetBackup サーバーをインストールする方法について、次の資料の指示に従ってください。『[Symantec NetBackup インストールガイド](#)』。
- サーバー名を指定する必要がある場合は、サーバーの仮想名を指定します。

- 11 NetBackup サーバーがインストールされているそれぞれの非アクティブノードで、任意の NetBackup オプション製品をインストールまたはアップグレードします。インストールおよび構成の手順については、そのオプション製品に関する NetBackup のマニュアルを参照してください。

- 12 アクティブノードで、同じインストール手順を実行します。

- 13 アクティブノードで次のコマンドを実行し、NetBackup エージェントの監視を有効にします。

```
rm -f /usr/openv/netbackup/bin/cluster/frozen
```

- 14 次のコマンドを入力し、NetBackup リソースグループの監視を行うアプリケーションを有効にします。

```
smitty hacmp
```

- 15 [System Management (C-SPOC)]を選択します。

- 16 [HACMP Resource Group and Application Management]を選択します。

- 17 [Suspend/Resume Application Monitoring]を選択します。

- 18 [Resume Application Monitoring]を選択します。

- 19 NetBackup サーバーを選択し、Enter キーを押します。

NetBackup リソースがオンラインになり、Service Guard で NetBackup リソースの監視が再開されます。

- 20 NetBackup リソースグループをオフラインにしてから、オンラインにします。

- 21 NetBackup がクラスタ内で正しくフェールオーバーできることを確認します。

p.84 の「[NetBackup 構成の検証](#)」を参照してください。

NetBackup リソースグループのオンライン化またはオフライン化

SMIT ツールでは、リソースグループ操作を管理できます。このツールを使用すると、NetBackup リソースグループをオンラインまたはオフラインにして、リソースグループの場所を移動できます。

NetBackup リソースグループをオンラインにする方法

- 1 次のコマンドを入力します。

```
smitty
```

- 2 [Communications Applications and Services]を選択します。

- 3 [HACMP for AIX]を選択します。

- 4 [System Management (C-SPOC)]を選択します。

- 5 [HACMP Resource Group and Application Management]を選択します。

- 6 [Online Group]を選択します。
- 7 オンラインにするグループを選択します。

NetBackup リソースグループをオフラインにする方法

- 1 次のコマンドを入力します。

```
smitty
```

- 2 [Communications Applications and Services]を選択します。
- 3 [HACMP for AIX]を選択します。
- 4 [System Management (C-SPOC)]を選択します。
- 5 [HACMP Resource Group and Application Management]を選択します。
- 6 [Offline Group]を選択します。
- 7 オフラインにするグループを選択します。

NetBackup の構成

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の構成の概要](#)
- [NetBackup の構成ガイドライン](#)
- [デバイスの構成ガイドライン](#)
- [デバイスの構成](#)
- [クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成](#)
- [NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について](#)
- [バックアップ対象](#)
- [クラスタ内のローカルディスクのバックアップのガイドライン](#)
- [共有ディスクのバックアップのガイドライン](#)
- [NetBackup 構成の検証](#)
- [ロボットデーモンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)
- [追加サービスの構成 \(UNIX/Linux クラスタ\)](#)
- [アドオンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)
- [追加サービスの構成 \(Windows\)](#)
- [アドオンの監視の構成 \(Windows\)](#)
- [ライセンスキーの追加について](#)

NetBackup の構成の概要

NetBackup の構成には、ストレージデバイス、ボリューム、カタログバックアップおよびバックアップポリシーの作成が含まれます。NetBackup 管理コンソールの NetBackup 構成ウィザードを使用すると、この構成を簡単に行えます。これらのステップを手動で実行する方法については、次を参照してください。『[Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』。(ウィザードを使用しない NetBackup の構成に関する項を参照してください。) NetBackup を構成する前に [表 8-1](#) を参照してください。

[表 8-1](#) に、各クラスタ環境に適用される情報の概略を示します。

表 8-1 NetBackup の構成

クラスタの種類	項	説明
すべて	p.78 の「NetBackup の構成ガイドライン」 を参照してください。	クラスタで NetBackup サーバーを構成する場合に従う一般的なガイドライン。
すべて	p.79 の「デバイスの構成ガイドライン」 を参照してください。	クラスタで NetBackup サーバーのデバイスを構成する場合に従う一般的なガイドライン。
すべて	p.80 の「デバイスの構成」 を参照してください。	デバイスの構成ガイドライン。
すべて	p.81 の「クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成」 を参照してください。	NetBackup カタログバックアップエントリが正しいことを確認するための手順。
すべて	p.82 の「NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について」 を参照してください。	自動バックアップポリシーの構成。
すべて	p.84 の「NetBackup 構成の検証」 を参照してください。	NetBackup が正しく構成されていることを確認するための手順。
UNIX または Linux	p.85 の「ロボットデーモンの監視の構成 (UNIX または Linux クラスタ)」 を参照してください。	NetBackup をフェールオーバーするためのロボットデーモンの構成方法。
UNIX または Linux	p.86 の「アドオンの監視の構成 (UNIX または Linux クラスタ)」 を参照してください。	UNIX または Linux クラスタで NetBackup をフェールオーバーするための NetBackup アドオン製品の構成方法。
Windows	p.87 の「アドオンの監視の構成 (Windows)」 を参照してください。	Windows で NetBackup をフェールオーバーするための NetBackup アドオン製品の構成方法。

クラスタの種類	項	説明
すべて	p.87 の「ライセンスキーの追加について」を参照してください。	クラスタ環境の追加ライセンスキー。

NetBackup の構成ガイドライン

NetBackup を構成する前に次のガイドラインを確認します。

- NetBackup フェールオーバーグループ内のすべてのノードを EMM データベースに適切に登録するには、NetBackup クラスタグループ内のすべてのノードに NetBackup グループをフェールオーバーする必要があります。
- NetBackup をフェールオーバーサーバーとして構成している各ノードで、NetBackup サーバーリストを正しく設定する必要があります。クラスタ環境の NetBackup では、仮想サーバー名が最初に表示される必要があります。その名前の後に、NetBackup グループ内のノード名を含めます。
- クラスタ外で実行される各 NetBackup サーバーの場合、サーバーリストに NetBackup を実行できる各ノードの名前が含まれている必要があります。リストには、仮想サーバー名も含まれている必要があります。
- NetBackup は名前に基づいて、バックアップおよびリストア処理に関連するシステム間で情報をルーティングします。そのため、NetBackup 構成内で、名前の使用が一貫している必要があります。特定のノード名および仮想名を相互に代用して使用しないようにしてください。
- CLIENT_NAME はノードの名前に設定する必要があります。
- CLUSTER_NAME は、クラスタで実行される NetBackup アプリケーション専用の仮想サーバー名である必要があります。
- アクティブノードで NetBackup 構成を変更する場合は、必ずクラスタ内の各ノードに同じ変更を適用します。
- クラスタ内の NetBackup サーバーの [ホストプロパティ (Host Properties)]
 - NetBackup 管理コンソールは、EMM データベースからノード情報を取得します。そのため、[ホストプロパティ (Host Properties)] の変更は、EMM データベースに登録済みのノードだけに影響します。([ホストプロパティ (Host Properties)] は、各ノードに NetBackup グループをフェールオーバーする場合にのみ変更します。)
 - [プロパティ (Properties)] パネルに表示されたすべてのホスト名のホストプロパティは、[ホストプロパティ (Host Properties)] ユーザーインターフェースを使用して更新できます。例外は [認可 (Authorization)] ホストプロパティで、このプロパティはアクティブノードだけで更新されます。

- [すべてに追加 (Add to All)]ホスト機能は、クラスタ化されたマスターサーバーだけに適用され、クラスタ化されたメディアサーバーには適用されません。クラスタ化されたメディアサーバーで[ホストプロパティ (Host Properties)]を更新するには、クラスタ化されたメディアサーバーの各ノードを個別に更新するか、または複数のノードを選択して更新する必要があります。
- 構成情報は共有ディスクに格納されるため、各ノードに対して個別に構成できません。(この情報には、バックアップポリシー、ストレージユニット、NetBackup カタログバックアップが含まれます。) その他の構成に対するすべての変更は、NetBackup サーバーを各ノードに移動して適用する必要があります。
- デフォルトでは、NetBackup はジョブを失敗と見なす前に、12 時間以内に 2 回バックアップジョブを試行します。NetBackup メディアサーバーのフェールオーバーが完了する前に、バックアップの試行が終わってしまう可能性があります。この場合、[スケジュールバックアップの試行回数 (Scheduled backup attempts)]の設定を 6 に増やします。[ジョブの再試行の遅延 (Job retry delay)]の設定値を小さくすることによって、この問題を回避することもできます。
- NetBackup がすべてのスケジュールバックアップを開始できるように、[ジョブの再試行の遅延 (Job retry delay)]の設定値を小さくする必要があります。
- バックアップする各クライアントのサーバーリストには、NetBackup を実行できる各ノードの名前が含まれている必要があります。このリストには、仮想サーバー名も含まれている必要があります。

デバイスの構成ガイドライン

クラスタ構成の NetBackup サーバーのデバイスの構成に対するガイドラインを次に示します。

- 可能な場合、[SCSI Persistent RESERVE]保護オプションを選択します。SCSI Persistent RESERVE の使用は推奨されますが、ハードウェアによって適切にサポートされているかどうかを確認してください。次を参照してください。『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 2](#)』。
このオプションを使用すると、NetBackup では、フェールオーバー後に予約済みドライブをリカバリおよび使用することができます (NetBackup で予約が所有されている場合)。SPC-2 SCSI RESERVE を使用する場合は、予約の所有者が正常に動作しないため、通常ドライブのリセットが必要になります。『[NetBackup 管理者ガイド](#)』を参照し、ドライブをリセットする方法と[SCSI RESERVE の有効化 (Enable SCSI Reserve)]の設定を参照してください。
- 1 つのノードだけに接続され、他のノードに接続されていないデバイスは、接続されているノードがオンラインである場合にのみ使用できます。NetBackup フェールオーバーマスターサーバーの場合、NetBackup がインストールされている各ノードにすべてのデバイスを接続します。必要に応じて、共有 SCSI またはファイバーチャネル接続を使用してデバイスを共有します。

- **NetBackup** メディアサーバーのフェールオーバー構成の場合は、**NetBackup** メディアサーバー名としてアクティブノード名を使用して、**NetBackup** マスターサーバーからデバイスを構成します。
- ロボットライブラリ内のテープデバイスの場合、ロボットドライブ番号フィールドが正しく設定されていることを確認します。ロボットライブラリの製造元の定めるドライブの番号付けスキームを使用します。**NetBackup** ではロボットの最初のドライブはロボットドライブ番号 1 と見なされます。製造元のドライブの番号付けスキームが異なる番号 (0 など) から始まっている場合は、それに合わせて調整します。
- フェールオーバーサーバーによって使用されているロボット番号が、そのロボットを使用するすべてのサーバーで一致していることを確認します。あるノードに定義されたロボット番号が別のノードに定義された番号と一致しない場合、バックアップは失敗する可能性があります。
- クラスタに存在するストレージユニットを作成する場合、[メディアサーバー (Media server)] の設定には **NetBackup** フェールオーバーサーバーの仮想名を選択します。
- ストレージユニットの作成時にメディアサーバーに[すべてのサーバー (Any server)] を選択すると、バックアップ操作およびリストア操作の実行時に仮想 **NetBackup** サーバーが選択されます。

デバイスの構成

この項では、**NetBackup** のデバイスを構成する方法について説明します。

メモ: クラスタの各ノードの多様な **SCSI** 接続に対応するには、各ノードでデバイスを構成する必要があります。まず、アクティブノードでデバイスを構成します。**NetBackup** グループを別のノードに移動し、そのノードでデバイスを構成します。次に、**NetBackup** を別のノードに移動し、そのノードでデバイスを構成するというように続けます。

ロボットデバイスに障害が発生した場合にフェールオーバーするように **NetBackup** を構成できます。

p.85 の「[ロボットデーモンの監視の構成 \(UNIX または Linux クラスタ\)](#)」を参照してください。

デバイスを構成する方法

- 1 デバイス構成のガイドラインを確認します。
p.79 の「[デバイスの構成ガイドライン](#)」を参照してください。
- 2 アクティブノードで、デバイスの構成ウィザードを実行します。このウィザードは、デバイスを自動的に検出して構成し、これらのデバイスのストレージユニットを作成します。
デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスを構成することをお勧めします。
- 3 NetBackup グループを別のノードに移動します。
- 4 メディアおよびデバイスの管理ユーティリティの表示を更新します。
- 5 デバイスの構成ウィザードを実行します。
- 6 クラスタ内の各ノードでデバイスの構成を続行します。手順 3 から手順 5 を繰り返します。

[デバイス (Devices)]ノードの更新後、または `tpconfig` の実行後に、デバイスパスが表示されない場合は、クラスタのアクティブノードが正しく構成されていません。

新しいデバイスを追加する方法

クラスタでデバイスを最初に構成した場合と同じ手順を実行します。まず、アクティブノードでデバイスを構成します。NetBackup グループを別のノードに移動し、そのノードでデバイスを構成します。次に、NetBackup を別のノードに移動し、そのノードでデバイスを構成するというように続けます。

クラスタでの NetBackup カタログバックアップの構成

オンラインカタログバックアップの構成方法と実行方法について詳しくは、次を参照してください。『[NetBackup 管理者ガイド](#)』。NetBackup カタログのリカバリについて詳しくは、次を参照してください。『[NetBackup トラブルシューティングガイド](#)』。

メモ: オンラインカタログバックアップでは、非アクティブノードの情報はバックアップされません。次の手順に従って別のポリシーを作成する必要があります。

クラスタでオンラインホットカタログバックアップを構成する方法

- 1 次に記載されている手順に従って、オンラインカタログバックアップを作成します。
『[NetBackup 管理者ガイド](#)』。
- 2 クラスタの各ノードで次のディレクトリをバックアップするポリシーを作成します。

Windows `install_path¥netbackup¥var`

UNIX または Linux `/usr/opensv/var`

NetBackup クラスタサーバーのバックアップポリシーの構成について

クラスタ内のすべてのデータをバックアップするには、クラスタ内のローカルディスク、共有ディスクおよびデータベースファイルをバックアップするためのバックアップポリシーを作成します。

次の項を参照してください。

p.82 の「[バックアップ対象](#)」を参照してください。

p.83 の「[クラスタ内のローカルディスクのバックアップのガイドライン](#)」を参照してください。

p.83 の「[共有ディスクのバックアップのガイドライン](#)」を参照してください。

バックアップ対象

次の項目をバックアップして、ファイルシステムおよびデータベースを含むクラスタのすべてのデータを保護します。

- 各ノードのローカルディスク
p.83 の「[クラスタ内のローカルディスクのバックアップのガイドライン](#)」を参照してください。
- 共有 SCSI バスに接続されているすべてのディスク。
p.83 の「[共有ディスクのバックアップのガイドライン](#)」を参照してください。
- データまたはデータベースアプリケーションを格納できる仮想サーバー。データベースをバックアップするには、NetBackup データベースエージェントを使用します
- また、Windows クラスタ用の MSCS および VCS では、各ノードのシステム状態およびシャドウコピーコンポーネントもバックアップします。MSCS クラスタの場合、クラスタクォーラムもバックアップする必要があります。クラスタクォーラムには、クラスタのリカ

バリ情報およびクラスタ構成の変更に関する情報が含まれます。クラスタクォーラムはシステム状態またはシャドウコピーコンポーネントのバックアップに含まれます。

p.83 の「[クラスタ内のローカルディスクのバックアップのガイドライン](#)」を参照してください。

クラスタ内のローカルディスクのバックアップのガイドライン

ノードのローカルディスク上のデータを保護するには、クライアントリストにクラスタノード名を含むポリシーを構成します。このポリシーに加えて、共有ディスクをバックアップする個別のポリシーも構成する必要があります。

p.83 の「[共有ディスクのバックアップのガイドライン](#)」を参照してください。

次に、ローカルディスクをバックアップするポリシーの構成のガイドラインを示します。

- フェールオーバーメディアサーバーの場合、バックアップポリシーの作成時に、フェールオーバーメディアサーバー用に作成したストレージユニットを選択します。
- クラスタに個別の NetBackup メディアサーバーとして NetBackup をインストールしている場合は、ノードごとにポリシーを構成します。各ポリシーには、クライアントとしてクラスタノード名を含める必要があります。各ポリシーで、そのクラスタノードにインストールされている NetBackup メディアサーバー用に作成されたストレージユニットを選択します。
- バックアップ対象リストに、すべてのローカルディスクを追加します (共有ディスクを除く)。
- Windows クラスタの場合、常に `System_State:¥` または `Shadow Copy Components:¥` をファイルリストに含めて、各クラスタノードのシステム状態をバックアップします。MSCS クラスタ用のポリシーでは、`System_State:¥` または `Shadow Copy Components:¥` によってクラスタクォーラム情報もバックアップされます。

共有ディスクのバックアップのガイドライン

共有ディスク上のデータを保護するには、クライアントリストに仮想サーバー名を含むポリシーを構成します。このサーバー名は共有ディスクと関連付ける必要があります。このポリシーに加えて、ローカルディスクをバックアップする個別のポリシーも構成する必要があります。

p.83 の「[クラスタ内のローカルディスクのバックアップのガイドライン](#)」を参照してください。

次に、共有ディスクをバックアップするポリシーの構成のガイドラインを示します。

- フェールオーバーメディアサーバーの場合、バックアップポリシーの作成時に、フェールオーバーメディアサーバー用に作成したストレージユニットを選択します。

- クラスタに個別の NetBackup メディアサーバーとして NetBackup をインストールしている場合は、いずれかのメディアサーバー用に作成したストレージユニットを選択します。または[任意 (Any Available)]を選択します。
- ストレージユニットに共有ディスクドライブへのローカルのダイレクトアクセス権がない場合、ネットワークからデータをバックアップします。この処理は、ストレージユニットが、現在共有ディスクドライブを制御していないクラスタのノードで実行されているメディアサーバーを参照している場合にも発生します。[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストで、共有ディスクのドライブ文字またはマウントされているディレクトリを指定します。

仮想サーバー名を定義するクラスタリソースおよび共有ディスクを定義するリソースが 2 つの個別のクラスタノードによって制御される場合、バックアップは失敗することに注意してください。仮想サーバー名と共有ディスクが一緒にフェールオーバーするように構成し、同じノードで常にそれらを制御するようにします。
- システム状態情報はノードのローカルディスクのバックアップに含まれます。このポリシーのファイルリストに System_State:¥ または Shadow Copy Components:¥ を含める必要はありません。

NetBackup 構成の検証

ストレージデバイス、ボリューム、カタログバックアップおよびバックアップポリシーの構成が完了したら、クラスタ内で NetBackup が正しくフェールオーバーされることを確認します。

NetBackup の構成を検証する方法

- 1 プライマリノードで NetBackup がオンラインであることを確認してから、次の処理が正常に実行できるかどうかを検証します。
 - スケジュールバックアップ
 - ユーザー主導バックアップ
 - NetBackup カタログバックアップ
 - サーバー主導およびユーザー主導リストア
- 2 NetBackup リソースグループを別のノードに切り替え、前の手順で行ったテストを実行します。NetBackup がインストールされているクラスタの各ノードに対してこの手順を繰り返します。

ロボットデーモンの監視の構成 (UNIX または Linux クラスタ)

デフォルトでは、ロボットデーモンで障害が発生しても、NetBackup はフェールオーバーされません。ロボットデーモンに障害が発生した場合に、NetBackup をフェールオーバーするようにロボットデーモンを構成できます。

メモ: 次の手順を実行する前に、ロボットを構成する必要があります。各オペレーティングシステムのリンクについて詳しくは、『Symantec NetBackup™ インストールガイド』ストレージデバイスの設定方法を参照してください。

ロボットデーモンに障害が発生した場合に NetBackup をフェールオーバーするように構成する方法

- 1 クラスタ内の各ノードでロボットを構成します。
- 2 次のスクリプトを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/cluster/cluster_config -r
```

- 3 a (追加) を選択します。
- 4 ロボットをリストから選択します。
複数のロボットを選択できます。

ロボットデーモンを監視から除外する方法

- 1 次のスクリプトを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/cluster/cluster_config -r
```

- 2 d (削除) を選択します。
- 3 除外するロボットを選択します。

追加サービスの構成 (UNIX/Linux クラスタ)

デフォルトでは、NetBackup のすべての必須サービスが NetBackup クラスタグループに追加されます。

NetBackup クラスタグループにサービスを追加する方法

- ◆ 次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpclusterutil  
-addSvc "ServiceName"
```

このコマンドにより、グループがオンラインになったものの、サービスが監視されていないときに、サービスが開始されます。サービス **ServiceName** が失敗した場合、これによりグループがフェールオーバーされることはありません。

NetBackup クラスタグループからサービスを削除する方法

- ◆ 次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpclusterutil  
-deleteSvc "ServiceName"
```

重要なサービスを削除すると、そのサービスが失敗した場合にクラスタはフェールオーバーしません。

アドオンの監視の構成 (UNIX または Linux クラスタ)

デフォルトでは、アドオン製品 (NetBackup Vault など) で障害が発生しても、NetBackup はフェールオーバーされません。これらの製品は、アドオン製品に障害が発生した場合に NetBackup をフェールオーバーするように構成できます。

オプションサービスの監視を有効にする方法

- ◆ 次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpclusterutil  
-enableSvc "ServiceName"
```

オプションサービスの監視を無効にする方法

- ◆ 次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpclusterutil  
-disbleSvc "ServiceName"
```

NetBackup Vault サービスと NetBackup キーマネジメントサービスに対してのみ、監視を有効または無効にすることができます。これらのサービスの **ServiceName** パラメータは nbvault および nbkms です。

追加サービスの構成 (Windows)

デフォルトでは、NetBackup のすべての必須サービスが NetBackup クラスタグループに追加されます。

サービスを追加する方法

- ◆ 次のコマンドを実行します。

```
<NetBackup_install_path>%NetBackup%\bin\bpclusterutil.exe  
-addSvc "ServiceName"
```

このコマンドにより、グループがオンラインになったものの、サービスが監視されていないときに、サービスが開始されます。サービス **ServiceName** が失敗した場合、これによりグループがフェールオーバーされることはありません。

NetBackup クラスタグループからサービスを削除する方法

- ◆ 次のコマンドを実行します。

```
<NetBackup_install_path>%NetBackup%\bin\bpclusterutil.exe  
-deleteSvc "ServiceName"
```

アドオンの監視の構成 (Windows)

デフォルトでは、アドオン製品 (NetBackup Vault など) で障害が発生しても、NetBackup はフェールオーバーされません。これらの製品は、アドオン製品に障害が発生した場合に NetBackup をフェールオーバーするように構成できます。

オプションサービスの監視を有効にする方法

- ◆ 次のコマンドを実行します。

```
<NetBackup_install_path>%NetBackup%\bin\bpclusterutil.exe  
-enableSvc "ServiceName"
```

オプションサービスの監視を無効にする方法

- ◆ 次のコマンドを実行します。

```
<NetBackup_install_path>%NetBackup%\bin\bpclusterutil.exe  
-disableSvc "ServiceName"
```

NetBackup Vault サービスと NetBackup キーマネジメントサービスに対してのみ、監視を有効または無効にすることができます。これらのサービスの **ServiceName** パラメータは「NetBackup Vault Service」および「NetBackup Key Management Service」です。

ライセンスキーの追加について

Windows マスターサーバーのインストールの終了時に他のライセンスを追加する場合、クラスタの各ノードにフェールオーバーしてこれらのライセンスを追加する必要があります。

す。新しいライセンスを後で追加する場合も、クラスタの各ノードにフェールオーバーしてこれらのライセンスを追加する必要があります。また、**Windows** の場合、`bpminlicense` コマンドも使用できます。**UNIX** または **Linux** サーバーの場合、各ノードへのフェールオーバーを実行する代わりに、`get_license` コマンドを実行してライセンスキーを追加することができます。

一部の機能および製品 (**NetBackup Shared Storage Option** など) では、メディアサーバーにもキーをインストールする必要があります。**NetBackup** フェールオーバーメディアサーバーを使用している場合は、これらのすべてのライセンスをクラスタ内の各ノードにも追加する必要があります。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [クラスタ化されたマスターサーバーの管理に関する一般的な注意事項](#)
- [切断された接続の検出の遅延について \(Windows 上の MSCS および VCS\)](#)
- [MSCS クラスタについて](#)
- [NetBackup クラスタアプリケーションの管理について](#)
- [ログ情報](#)
- [NetBackup の IPv6 サポートについて](#)

クラスタ化されたマスターサーバーの管理に関する一般的な注意事項

フェールオーバーサーバーとして NetBackup をいつ使うかを考慮する場合は、次の操作上の問題を考慮します。

- **NetBackup** サーバーがフェールオーバーしたときに、バックアップジョブを実行中の場合、次のいずれかが発生します。
 - ポリシーのバックアップジョブで「チェックポイントから再開」機能が有効な場合は、実行中だったバックアップが最後のチェックポイントから再開されます。スケジュール時間帯でジョブの再開を許可する必要があることに注意してください。
 - バックアップジョブで「チェックポイントから再開」機能が有効ではない場合、実行中だったバックアップジョブは失敗します。これらのジョブは、アクティビティモニターまたは NetBackup レポートに失敗したジョブとして表示されます。スケジュールされたバックアップジョブは、通常の再試行処理によって再試行されます。([ジョブの再試行の遅延 (Job retry delay)] と [スケジュールバックアップの試行回数 (Schedule backup attempts)] 属性を参照してください)。スケジュール時間帯などでジョブの再試行が許可されている必要があります。フェールオーバーが発生

すると、ユーザー主導バックアップおよび手動バックアップは、ユーザーが再開する必要があります。

これらのステップを手動で実行する方法については、次を参照してください。
『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。チェックポイントからの再開、ジョブの再試行の遅延、スケジュールバックアップの試行については、次を参照してください。

- **NetBackup** フェールオーバーサーバーでフェールオーバーが発生すると、テープデバイスおよびメディアサーバーがリセットされるまでに時間がかかります。たとえば、テープを利用する前に、巻き戻す必要がある場合があります。デバイスが再び使用できるようになるまでに、エラーが表示される可能性があります。たとえば、エラー **213** (利用可能なストレージユニットがない) またはエラー **219** (必要なストレージユニットが利用できない) などのエラーが表示される可能性があります。
- フェールオーバーの後、**NetBackup** は、バックアップカリストアに必要なドライブの状態を **PEND** に変更する場合があります。保留中の要求か操作を解決するために **NetBackup** 管理コンソールのデバイスモニターを使用する方法についての詳細情報が利用可能です。
次を参照してください。『**NetBackup** 管理者ガイド Vol. 1』。
- フェールオーバーの発生時に **NetBackup** 管理コンソールが開かれている場合は、表示を更新する必要があります。この更新によって、アクティブノードのサービスが正しく表示されます。**NetBackup** 管理コンソールで (表示メニューから) [すべて更新 (Refresh All)] をクリックします。
- バックアップとリストアの処理は、クラスタ環境であるか非クラスタ環境であるかにかかわらず同じです。詳しくは、『**Symantec NetBackup** トラブルシューティングガイド UNIX、Windows および Linux』バックアップ、アーカイブ、リストア処理の詳細については、次を参照してください。
- TIR はクラスタ化された共有ドライブではサポートされません。

切断された接続の検出の遅延について (Windows 上の MSCS および VCS)

NetBackup の Windows マスターサーバーからメディアサーバーへの接続が切断された場合、切断された接続の検出が遅延することがあります。たとえば、バックアップの実行中にメディアサーバーが停止したとします。メディアサーバーが利用できなくなったことがマスターサーバーで検出されるまでに、遅延が発生することがあります。**NetBackup** の Windows マスターサーバーで問題が発生したように見える可能性があります。この遅延は、**KeepAliveTime** という、Windows の TCP/IP 構成パラメータが原因です。デフォルトでは、このパラメータは **7,200,000** (単位はミリ秒、2 時間) に設定されています。Windows の **KeepAliveTime** パラメータおよびその他の関連する TCP/IP 構成パラメータについ

て詳しくは、Microsoft 社のサポート技術情報検索で Q140325 および Q120642 を参照してください。

この遅延によって、メディアサーバーへの接続が切断された後も、メディアサーバー上でジョブが実行中であるように見えます。現在のバックアップジョブが失敗するまでに、望ましくない遅延が発生する場合があります。NetBackup によって、他のメディアサーバー (使用できる場合) でジョブの再試行が行われます。

この遅延は、問題のメディアサーバーが、Microsoft Cluster Server (MSCS) 環境で実行されている NetBackup フェールオーバーメディアサーバーである場合に特に顕著です。NetBackup では、NetBackup マスターサーバーによってフェールオーバーの発生時に NetBackup フェールオーバーメディアサーバーで実行中であった NetBackup ジョブが再開されます。

NetBackup の Windows マスターサーバーの KeepAliveTime 構成パラメータは変更することができます。ただし、十分に注意する必要があります。このパラメータはそのシステムのすべての TCP/IP 通信に影響します。また、フェールオーバーマスターサーバーを使用する Windows メディアサーバーでこのパラメータを変更することが有効となる場合もあります。

MSCS クラスタについて

MSCS 環境でフェールオーバーサーバーとして NetBackup を使用する前に、次の点に注意してください。

- NetBackup フェールオーバーサーバーの制御ノード上に構成されているテープデバイスがない場合、NetBackup Device Manager サービスリソースはオフラインになります。NetBackup フェールオーバーサーバーにテープデバイスを構成しない場合は、NetBackup グループから NetBackup Device Manager サービスリソースを削除できます。こうすることで、状態が警告または失敗のグループが表示されないようにすることができます。
- 3 ノード以上で構成される MSCS クラスタの場合、MSCS のグループの移動コマンドを実行すると、クラスタ内のすべてのノードが一覧表示されます。使用する NetBackup フェールオーバーサーバーで有効なノードを選択する必要があります。(MSCS では、NetBackup がインストールされていないノードも含めて、クラスタ内のすべてのノードが表示されます。)
- また、すべてのクラスタ環境に関連する注意事項については、前述の項を参照してください。

NetBackup クラスタアプリケーションの管理について

クラスタの NetBackup を起動および停止するには、クラスタアプリケーションの管理ツールのみを使用します。UNIX または Linux 環境で、`bp.start_all` または `bp.kill_all` を使用して NetBackup を起動または停止しないでください。

ログ情報

NetBackup では、処理の情報が記録されます。この情報を使用して、サーバーがフェールオーバーした理由を判定することができます。ログ情報はトラブルシューティングに非常に役立ちます。

UNIX および Linux のログ

UNIX と Linux プラットフォームのログ情報は次の場所で見つけることができます。

- クラスタの構成関連情報は
`/usr/opensv/netbackup/logs/cluster` にある `log.cc.<date>` ファイルに記録されます。ログディレクトリがない場合は、構成スクリプトによって作成されます。
- クラスタのアップグレード関連情報は
`/usr/opensv/netbackup/logs/cluster` にある `trace.cluster_upgrade.<process_ID>` ファイルに記録されます。
- エージェント (オンライン/オフライン/モニター) の関連情報は
`/usr/opensv/netbackup/logs/cluster` にある `log.<date>` ファイルに記録されます。
- 詳細なログを生成するには、`/usr/opensv/netbackup/bin/cluster/NBU_RSP` ファイルに構成パラメータ「`DEBUG_LEVEL=1`」を追加します。

メモ: この構成はノード固有であり、その有効なノードのログレベルに影響します。このオプションは、必要とされる場合のみ有効にし、ストレージの注意事項で必要とされない場合は無効にします。

Windows のログ

クラスタ構成の状態フィールドはクラスタ構成についての詳細を報告します。問題が発生した場合は、状態フィールドを参照してください。インストール中に発生したクラスタ構成の手順の詳細はインストールログに記録されます。ログには、クラスタ構成コマンドを実行するために使われたパラメータとそれによって戻された状態が記録されます。

Windows プラットフォームのログ情報は次の場所で見つけることができます。

- クラスタの構成とアップグレードの関連情報は、%ALLUSERSPROFILE%\Symantec\NetBackup\InstallLogsにあるClusterConfig.<timestamp>.log ファイルに記録されます。
- エージェント (MSCS) の場合は、イベントビューアを使用します。
- エージェント (VCS) の場合は、VCS のログディレクトリにある NetBackupVCS エージェントログファイルを使用します。

NetBackup の IPv6 サポートについて

NetBackup で IPv6 を使用する方法

- 基盤環境が IPv6 をサポートしていることを確認します。
- NetBackup で使用される仮想名は常に単一の IP アドレスに解決される必要があります。仮想名は単一の IPv4 アドレスまたは単一の IPv6 アドレスのいずれかに解決されます。仮想ホスト名が複数の IP アドレスに解決される場合、NetBackup は正しく機能しません。
- IPv4 からの IPv6 への移行、またその逆の移行はサポートされません。このため、すべてのアップグレードは IPv4 形式で実行されます。

メモ: NetBackup インストーラは IPv4 形式を使って、IPv6 リソースを作成します。これにより、正常にオンラインになる NetBackup クラスタサービスグループで問題が発生しません。回避策については、TechNote 174144 を参照してください。

NetBackup での IPv6 の使用について詳しくは、次を参照してください。『[Symantec NetBackup 管理者ガイド](#)』。

クラスタ技術をサポートするバージョンでは、次を参照してください。『[NetBackup クラスタの互換性の表](#)』。

複数インターフェースを使用 するクラスタ内の NetBackup マスターサー バー

この付録では以下の項目について説明しています。

- [複数インターフェースを使用するクラスタ内の NetBackup マスターサーバーについて](#)
- [複数のインターフェースを使用するクラスタで NetBackup マスターサーバーを使う場合の要件](#)
- [複数のインターフェースを使用するクラスタでの NetBackup マスターサーバーの構成](#)

複数インターフェースを使用するクラスタ内の NetBackup マスターサーバーについて

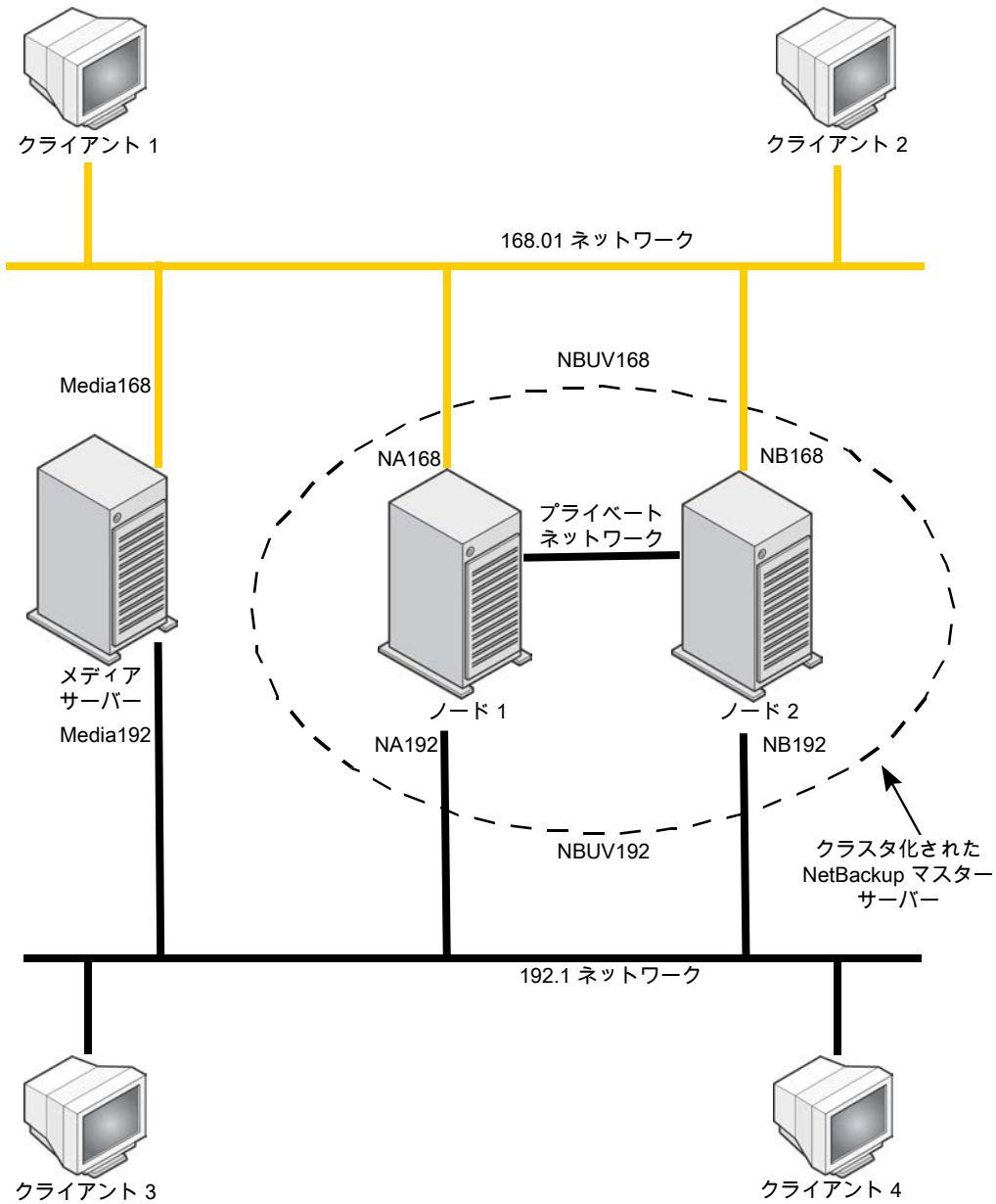
クラスタ環境では、すべての NetBackup マスターサーバーのトラフィックおよび通信は、マスターサーバーの仮想名に関連付けられたネットワークインターフェースを介して移動します。ANY_CLUSTER_INTERFACE 構成パラメータを使用すると、NetBackup マスターサーバーで利用可能な任意のインターフェース間の通信を許可することができます。

次の図に、クラスタ化された NetBackup マスターサーバーが、2 つの個別のネットワーク (168.1 および 192.1) にアクセスする場合の例を示します。クライアントコンピュータは両方のネットワークに接続されており、バックアップする必要があります。マスターサーバーの仮想名 (たとえば、NBUV168) は、1 つのネットワークのみに関連付けることができま

す。このため、すべての **NetBackup** 通信はその特定のインターフェース上でのみ発生します。他のインターフェース上のクライアントとは通信することができません。

図 A-1 に、複数のネットワークインターフェースを使用する環境の **NetBackup** を示します。

図 A-1 複数のネットワークインターフェースを使用する環境の NetBackup



複数のインターフェースを使用するクラスタで NetBackup マスターサーバーを使う場合の要件

複数のインターフェースを使用するクラスタで NetBackup マスターサーバーを使う場合は、次の要件があります。

- クラスタ環境が正しくインストールおよび構成されている。
- クラスタ化された NetBackup マスターサーバーが機能している。
- 各インターフェースに一意的な仮想名 (IP アドレスおよびホスト名) が関連付けられている。
- NetBackup 6.0 MP1 以上。

複数のインターフェースを使用するクラスタでの NetBackup マスターサーバーの構成

次の手順を実行し、追加のネットワークインターフェース上での通信を許可します。

複数のインターフェースを使用するクラスタで NetBackup マスターサーバーを構成する方法

- 1 それぞれの追加インターフェースに、NetBackup クラスタグループ内の仮想名および IP アドレスリソースを追加します。

この仮想名は、クライアントが特定のネットワークで参照するマスターサーバー名です。

- 2 ANY_CLUSTER_INTERFACE パラメータを設定します。
- 3 Windows では、次の手順を実行します。

- レジストリエディタで、次のパスに移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\VERITAS\NetBackup\CurrentVersion  
¥Config
```

- ANY_CLUSTER_INTERFACE という新しい DWORD 値を作成します。
- [値のデータ] を 1 に変更します。

- 4 UNIX/Linux では、bp.conf に次のエントリを追加します。

```
ANY_CLUSTER_INTERFACE = 1
```

- 5 マスターサーバーのサーバーリストに次の名前を追加します。

- 各ネットワークインターフェースのマスターサーバーのノード名。

- 各ネットワークインターフェースのマスターサーバーの仮想名。

たとえば、複数のネットワークインターフェースを使う環境でマスターサーバーを構成するには、**NBUV168**、**NBUV192**、**NA168**、**NA192**、**NB168**、**NB192** を追加します。

p.96 の [図 A-1](#) を参照してください。

- 6 各メディアサーバーのノード名を、マスターサーバーのメディアサーバーリストに追加します。

たとえば、**Media168** および **Media192** を追加します。

- 7 **NetBackup** マスターサーバーがインストールされているすべてのノードで、手順 **2** から手順 **6** を繰り返します。

- 8 すべての **NetBackup** クライアントのサーバーリストを更新します。

リストには、ネットワーク上のマスターサーバーで使用されている可能性のあるすべての名前を含める必要があります。たとえば、**168.1** ネットワークのクライアントの場合、サーバー名 **NBUV168**、**NA_168** および **NB_168** を含めます。**192.1** ネットワークのクライアントの場合、サーバー名 **NBUV192**、**NA_192** および **NB_192** を含めます。

A

Active/Active アプリケーション
NetBackup 12

C

CLIENT_NAME 78
CLUSTER_NAME 78
cmhaltpkg 65
cmmmodpkg 62~63
cmrunpkg 65
cmviewcl 65

H

HACMP

NetBackup データベースエージェント
インストールまたはアップグレード 71
NetBackup のオプション製品
インストールまたはアップグレード 71
NetBackup のオプション製品の監視 86
NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグ
レード 72、74
rsh に対応 67
インストールおよび構成 69
インストールの前提条件 67
バックアップ 82
ハードウェア要件 67
ロボットデーモンの監視 85

HP MC/Service Guard

NetBackup データベースエージェント
インストールまたはアップグレード 62
NetBackup のオプション製品
インストールまたはアップグレード 62
NetBackup のオプション製品の監視 86
NetBackup リソースグループ
オフラインにする 65
オンラインであることを確認 65
オンラインにする 65
remshequivalency 58
インストールおよび構成 59
インストールの前提条件 57

共有ディスク構成 57
デバイス構成 81
バックアップ 82
ハードウェア要件 57
ロボットデーモンの監視 85

K

KeepAliveTime 91

L

LiveUpdate 12

M

Microsoft Cluster Administrator
すべての NetBackup サーバーへのインストール 16
Microsoft Cluster Server (MSCS)
NetBackup Device Manager 91
NetBackup クラスタグループ名 16
NetBackup サーバーへの接続の切断 91
NetBackup のオプション製品の監視 87
NetBackup の仮想名 15
[Possible Owners]リスト 15
インストールについての注意事項 16
インストールの前提条件 15
クラスタクォーラムのリストア 19
グループの移動 91
ディザスタリカバリ 24
デバイス構成 81
バックアップ 82
ハードウェア要件 15
フェールオーバーサーバーのアップグレード 18

N

NetBackup Device Manager 91
NetBackup 管理コンソール
フェールオーバー後の更新 90
NetBackup サーバー
クラスタでのサポート 12
NetBackup のオプション製品
MSCS クラスタでの監視 87

UNIX または Linux クラスタでの監視 86
 NetBackup フェールオーバーサーバー
 MSCS へのインストール 16~17、40
 VCS へのインストール 40

S

SCSI Persistent RESERVE 79
 SCSI RESERVE の有効化 (Enable SCSI reserve) 79
 scstat 55
 scswitch 53~55
 Sun Cluster
 NetBackup データベースエージェント
 インストールまたはアップグレード 52
 NetBackup のオプション製品
 インストールまたはアップグレード 52
 NetBackup のオプション製品の監視 86
 NetBackup フェールオーバーサーバーのアップグ
 レード 53、55
 NetBackup リソースグループ
 オンラインにする 55
 rsh に対応 48
 インストールおよび構成 50
 インストールについての注意事項 50
 インストールの前提条件 48
 共有ディスク構成 49
 デバイス構成 81
 バックアップ 82
 ハードウェア要件 48
 ロボットデーモンの監視 85

T

tpconfig 81

U

UNIX または Linux 用の Veritas Cluster Server (VCS)
 NetBackup データベースエージェント
 インストール 33
 NetBackup のオプション製品
 インストール 33
 監視 33
 NetBackup のオプション製品の監視 33、86
 NetBackup の仮想名 27
 NetBackup フェールオーバーサーバーのインストー
 ルおよび構成 31
 rsh に対応 28
 インストールについての注意事項 31
 インストール前チェックリスト 28
 共有ディスク構成 27

サポートされる NetBackup エージェント 35
 バックアップ 82
 ハードウェア要件 27
 フェールオーバーサーバーのアップグレード 34
 ロボットデーモンの監視 85

W

Windows 2000 および Windows Server 2003 用の
 Veritas Cluster Server (VCS)
 NetBackup サービスグループ 40
 オフライン 38
 オンライン (Online) 38
 監視 (Monitor) 38
 クリーニング 38
 詳細監視 43、46
 接続の切断
 NetBackup の Windows サーバー 91
 デバイス構成 81
 バックアップ 82
 フェールオーバーサーバーのアップグレード 42
 要件 39
 Windows 用の Veritas Cluster Server (VCS)
 NetBackup クラスタグループ名 40
 NetBackup の仮想名 39
 NetBackup フェールオーバーサーバーのインストー
 ル 40
 インストールについての注意事項 40

か

仮想サーバー名 10
 クライアントリスト内 83
 バックアップ 84
 カタログバックアップ
 ホットバックアップ 82
 共有ディスク
 ストレージユニット 84
 クラスタクォーラム
 リストア 19、22
 クラスタ構成
 NetBackup フェールオーバーサーバー 10
 サーバーの種類のはサポートされない 10
 クラスタソリューション
 サポート 11
 クラスタで NetBackup がサポートするプラットフォーム 11
 構成
 NetBackup 78~79
 クラスタエイリアスの使用 78
 検証 84

サーバーリスト 78～79
互換性リスト 11

さ

サーバーの種類
混在 12
サーバーリスト 78
クライアント 79
サポートされるクラスタソリューション 11
ジョブの再試行の遅延 (Job retry delay) 79、90
スケジュールバックアップの試行回数 (Schedule backup attempts) 90
スケジュールバックアップの試行回数 (Scheduled backup attempts) 79
ストレージユニット
NetBackup フェールオーバーメディアサーバー 83
NetBackup メディアサーバーとしてのアクティブノード名 80
フェールオーバー非対応の NetBackup メディアサーバー 84
制限事項 12
接続の切断、NetBackup の Windows サーバー 91

た

「チェックポイントから再開」機能 89
デバイス構成
HP MC/Service Guard の手順 81
MSCS の手順 81
Sun Cluster の手順 81
VCS の手順 81
アクティブノード名の指定 80
新しいデバイスの追加 81
ガイドライン 79～80
デバイスをすべてのノードに接続 79

は

バックアップ
共有ディスク 83
クラスタ内のバックアップ対象 82
クラスタ内のローカルディスク 83
フェールオーバー 89
バックアップポリシー 82
フェールオーバー
NetBackup 管理コンソールの手動更新 90
ストレージユニットのエラー 90
定義 9
バックアップジョブの実行中 89

フェールオーバー非対応サーバー
フェールオーバーサーバーへの変換 12
フェールオーバーマスターサーバー 10
フェールオーバーメディアサーバー 10
保留中の要求 90

ら

ライセンスキー
マスターサーバーへの追加 88
メディアサーバーへの追加 88
ローカルディスク
バックアップ 83
ロボットデーモン
UNIX または Linux クラスタでの監視 85
ロボットライブラリ 80